



令和3年度 2021 College Bulletin

学校要覧

Mission

豊かな人間性を有し創造力に富む

実践的な技術者の育成

地域における知の拠点としての社会貢献



■校章とその由来

二つの高専の伝統を守りつつ、新しいイメージになるように考えられています。
中央の「K」は古の良さと新しき時代を融合させた書体で力強さを出しています。
「K」から枝が生え実った2個のオリーブは高松キャンパスと詫間キャンパスを表しています。色は、知的で誠実な印象を与える配色としました。



高松キャンパス



詫間キャンパス

巻頭言

国立香川高等専門学校（香川高専）は、ともに長い歴史を持つ高松工業高等専門学校（高松高専）と詫間電波工業高等専門学校（詫間電波高専）が統合して2009年10月に発足し、2021年度の入学生は第12期生となります。本校には、本科7学科として、機械工学科、電気情報工学科、機械電子工学科、建設環境工学科、通信ネットワーク工学科、電子システム工学科、情報工学科、専攻科2専攻として、創造工学専攻と電子情報通信工学専攻を設置しています。高松キャンパスは創造工学系、詫間キャンパスは電子情報通信工学系とキャンパスそれぞれの特徴を活かしながら、両キャンパスの連携を強化することで、香川高専として魅力的な教育プログラムと教育環境を提供しています。

本科は、中学校卒業後からの5年間の課程であり、大学2年生までに相当する一貫教育である特徴を活かし、リベラルアーツとしての基礎科目からエンジニアリングの専門科目までを体系的に学ぶ、新しい教育プログラムを提供しています。低学年からはじまる実践的技術教育を融合したカリキュラムにより、「広い視野をもつ」、「科学技術の基礎知識と応用力を身につける」、「課題解決の実行力と想像力を身につける」、「物事を論理的に考え表現する能力を身につける」ことを目的としています。これにより「豊かな人間性を有し、創造力に富む実践的な技術者の育成」を行っています。5年間の学習で、大学とほぼ同程度の実力を身に付けることができ、准学士の学位を取得することができます。

専攻科は、本科卒業後2年間の課程であり、創造的「ものづくり」の領域で活躍できる技術者、先端的「電子情報通信」の領域で活躍できる技術者をめざして、高度な「分析・解析能力」、「創造的課題解決能力」、「研究開発能力」を身につけることで、「様々な産業分野において指導的役割を担える創造性豊かな実践的技術者の育成」を行っています。専攻科修了時には、学士の学位を取得することができます。これにより、大学卒業と同等となり、大学院受験の資格も得られます。

各キャンパスには、図書館、学生相談室、キャリアサポートセンター、保健室などにより修学サポート体制を整え、男子寮・女子寮、食堂・売店、合宿研修施設などの福利厚生施設を備えることで、キャンパスライフの充実を図っています。

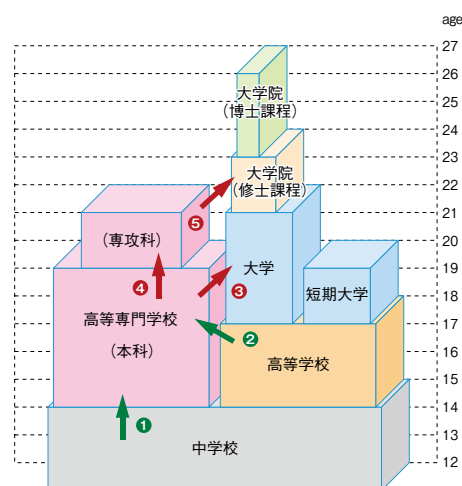
香川高専では、グローバル教育にも力を注いでおり、国際学術協定をベースとした「海外インターンシップ」や「海外からの講師招へいや遠隔講義」、「グローバルエンジニア研修プログラム」による学生の派遣や受け入れなどの活動を、国際交流室を中心として推進しています。また、みらい技術共同教育センター、地域イノベーションセンターを設置し、地域自治体や香川高専産業技術振興会などと連携しながら、人材育成ならびに共同研究などを行い、「地域における知の拠点としての社会貢献」を進めています。

これまでの高松高専と詫間電波高専の長い歴史と伝統の中で、二万余名の両校の卒業生・修了生の多くは民間企業や、官公庁、大学、研究所等において、産業・技術・研究の第一線で幅広く活躍しており、その優れた実力と堅実な勤務態度は各方面から高く評価されています。香川高専はこの伝統を継承しつつ、新しい歩みを進めて参りますので、皆様のご支援ご鞭撻、よろしくお願い申し上げます。



香川高等専門学校 校長

田中正夫



- ① 中学校卒業段階の学生が入学
- ② 高校卒業者は高専への編入資格がある
- ③ 高専卒業者は大学への編入の資格がある
- ④ 高専卒業者は高専の専攻科に進学する資格がある
- ⑤ 専攻科を修了して「学士」を得た者は、大学院への入学資格がある

目 次

巻頭言

本校の概要 1

創立の趣旨

沿革

使命・教育目的 3

香川高等専門学校の使命

教育目的

組織 4

組織図

役付職員

現員

本科 6

一般教育科

[創造基礎工学系]

機械工学科 10

電気情報工学科 12

機械電子工学科 14

建設環境工学科 16

[電子情報通信工学系]

通信ネットワーク工学科 18

電子システム工学科 20

情報工学科 22

専攻科 24

創造工学専攻

機械工学コース

電気情報工学コース

機械電子工学コース

建設環境工学コース

電子情報通信工学専攻

国際交流活動 28

国際学術交流

学生の国際交流活動

香川高専・他高専・高専機構が主催・共催した

学生の国際交流活動

香川高専グローバルエンジニア研修プログラム

国際シンポジウム等の開催

外国人留学生

地域人材開発本部 30

地域人材開発本部組織図

スタッフ

みらい技術共同教育センター

地域イノベーションセンター

香川高専教員の研究分野、キーワード

産学官連携活動

地域社会連携活動

AI社会実装教育研究本部 34

社会基盤メンテナンス教育センター 35

研究活動等 36

科学研究費助成事業

受託研究

共同研究

その他競争的資金・助成金

情報処理施設 38

情報インフラストラクチャ

情報基盤センター

技術教育支援センター 39

学生相談等施設 40

学生相談室

キャリアサポートセンター

図書館 41

学生寮 42

清雲寮

七宝寮及び紫雲寮

福利厚生施設 43

自彊会館

福利センター

職員集会所

和敬館

合宿研修所

学生数と志願者状況 44

学生数

入学志願者数と入学者数

学生組織 45

学生会組織図

部活動及び同好会

進路状況 46

本科生

専攻科生

大学編入先一覧 本科生

大学院入学先一覧 専攻科生

就職先一覧

施設配置図 48

財政 48

収入・支出

寄附金受入状況

アクセスマップ 50

校歌 51

本校の概要

◇創立の趣旨

近年、社会の変化に伴って国立高専を取り巻く環境は大きく変化し、それに対応して高専には自ら変革することが強く求められてきています。即ち、あらゆる分野のグローバル化が進展し、科学技術の進歩と社会の高度化・複雑化が急速に進み、高専教育においても時代に対応した準学士課程の充実と専攻科の高度化が必要になっています。一方、少子・高齢化による社会の年代構成の変化とともに、子供達の理科離れ現象により高専の志願者数は減少傾向にありますが、社会の発展の基盤部分を支えていくという社会的責任の下に、高専としては、従来以上の高度な実践的・創造的技術者の育成を目指さなければなりません。

中央教育審議会大学分科会においては、高等専門学校特別委員会が設けられ、「高等専門学校教育の充実について」検討され、平成20年12月24日に16年ぶりで答申がなされています。そこには、開校以来高専が高い評価を得ていること、知識基盤社会の到来に対する技術の高度化に向けて、科学技術創造立国を実現するという観点からも一層の教育の充実・強化が必要であることなどが述べられています。また、学習意欲の高揚を図り、国際的な活躍が期待できる学生を育てるために、他の教育機関や産業界、地域社会との連携を進めることの必要性が提言されています。

これらの状況を踏まえて、香川地区では二つの高専の特色を活かしつつ、高度化再編を図り、本科を創造基礎工学系（高松キャンパス）と電子情報通信工学系（詫間キャンパス）の2工学系に大括りして、専攻科は本科の各工学系に対応した2専攻として、新しく「香川高等専門学校」を創立しました。この新高専の使命は、「豊かな人間性を有し創造力に富む実践的な技術者の育成」と「地域における知の拠点としての社会貢献」としています。そして、教育研究基盤並びに管理運営基盤の強化を基に、広い視野と創造性・問題解決能力に富む実践的な技術者を育成するとともに香川県の産業界や行政と連携を深めて地域の活性化に貢献します。さらに、四国地区高専の拠点校として、高専間の連携を図り、産業界や大学との広域連携体制を構築していきます。



◇沿革

高松工業高等専門学校（高松キャンパス）

昭和 37（1962）年 4 月

機械工学科 2 学級、電気工学科 1 学級からなる国立高松工業高等専門学校を創設

初代校長に増山義雄（大阪府立大学教授）就任

昭和 41（1966）年 4 月

土木工学科 1 学級を増設

昭和 49（1974）年 4 月

第二代校長に立松秋雄（文部省大学学術局科学官）就任

昭和 57（1982）年 4 月

第三代校長に國松治男（文部省初等中等教育局審議官）就任

昭和 61（1986）年 6 月

第四代校長に河西三省（京都大学名誉教授）就任

平成 2（1990）年 4 月

機械工学科 1 学級を改組し、制御情報工学科を設置

平成 3（1991）年 4 月

第五代校長に山本清（日本国際教育協会専務理事）就任

平成 6（1994）年 4 月

土木工学科を建設環境工学科に改組

平成 8（1996）年 7 月

第六代校長に平川忠男（大学入試センター副所長）就任

平成 11（1999）年 4 月

専攻科（機械電気システム工学専攻、建設工学専攻）を設置

平成 13（2001）年 4 月

電気工学科を電気情報工学科に名称変更

第七代校長に早野浩（文部科学省大臣官房文教施設部長）就任

平成 16（2004）年 4 月

独立行政法人国立高等専門学校機構高松工業高等専門学校に移行

平成 17（2005）年 4 月

第八代校長に塩谷幾雄（広島大学理事・副学長）就任

平成 20（2008）年 10 月

第九代校長に嘉門雅史（京都大学大学院地球環境学堂長、地球環境学舎長）就任

香川高等専門学校

平成 21（2009）年 10 月

高松工業高等専門学校と詫間電波工業高等専門学校を高度化・再編し、独立行政法人国立高等専門学校機構香川高等専門学校を設置
創造基礎工学系（機械工学科、電気情報工学科、機械電子工学科、建設環境工学科）、電子情報通信工学系（通信ネットワーク工学科、電子システム工学科、情報工学科）を設置

専攻科（創造工学専攻、電子情報通信工学専攻）を設置

初代校長に嘉門雅史（高松工業高等専門学校長）就任

平成 25（2013）年 1 月

香川高等専門学校創基 70 周年・高専創立 50 周年記念式典挙行

平成 26（2014）年 4 月

第二代校長に八尾健（京都大学大学院エネルギー科学研究科教授・工学部教授、前エネルギー科学研究科長）就任

平成 30（2018）年 4 月

第三代校長に安蘇芳雄（大阪大学教授、産業科学研究所 附属産業科学ナノテクノロジーセンター長）就任

令和 3（2021）年 4 月

第四代校長に田中正夫（大阪大学大学院基礎工学研究科教授）就任

詫間電波工業高等専門学校（詫間キャンパス）

昭和 18（1943）年 10 月

官立無線電信講習所大阪支所を大阪府中河内郡矢田村に設立

昭和 20（1945）年 4 月

官立大阪無線電信講習所と改称

昭和 24（1949）年 4 月

香川県三豊郡詫間町に移転、国立学校設置法の施行により詫間電波高等学校と改称

昭和 46（1971）年 4 月

国立詫間電波工業高等専門学校を設置

初代校長に石黒美種（徳島大学工学部教授工学博士）就任

昭和 51（1976）年 4 月

電波通信学科 2 学級、電子工学科 1 学級に改組

昭和 54（1979）年 4 月

第二代校長に田中哲郎（京都大学工学部教授工学博士）就任

昭和 55（1980）年 4 月

電波通信学科 2 学級を電波通信学科 1 学級、情報工学科 1 学級に改組

昭和 60（1985）年 4 月

電子制御工学科 1 学級を増設

昭和 62（1987）年 4 月

第三代校長に浅井健次郎（京都大学理学部教授理学博士）就任

平成元（1989）年 4 月

電波通信学科を情報通信工学科に名称変更

平成 3（1991）年 4 月

第四代校長に片山健一（京都大学化学研究所教授理学博士）就任

平成 8（1996）年 4 月

第五代校長に布川晃（京都大学工学部教授工学博士）就任

平成 13（2001）年 4 月

第六代校長に竹内賢一（京都大学大学院工学研究科教授 Ph.D）就任

平成 16（2004）年 4 月

独立行政法人国立高等専門学校機構詫間電波工業高等専門学校に移行
専攻科（電子通信システム工学専攻、情報制御システム工学専攻）を設置

平成 18（2006）年 4 月

第七代校長に高畑秀行（高松工業高等専門学校 機械工学科教授）就任

使命・教育目的

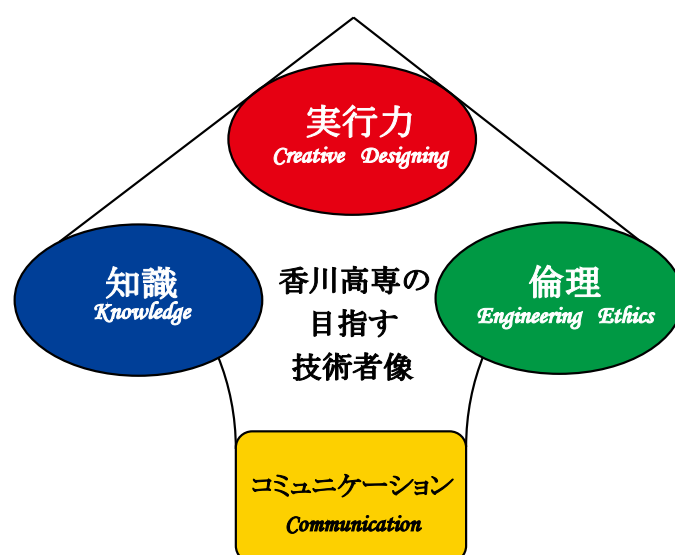
◇香川高等専門学校の使命

豊かな人間性を有し創造力に富む実践的な技術者の育成
地域における知の拠点としての社会貢献

◇教育目的

本校では、教育目的を次のように設定しており、教育課程の具体的な学習・教育目標はこれを基本として構成されています。

- ◇ 広い視野を持ち、自然との調和を図り、人類の幸福に寄与できる技術者を養成する。
(倫理)
- ◇ 科学技術の基礎知識と応用力を身につけ、時代の変遷に対応できる技術者を養成する。
(知識)
- ◇ 課題解決の実行力と創造力を身につけ、社会に有益なシステムを構築できる技術者を養成する。
(実行力)
- ◇ 物事を論理的に考え表現する能力を身につけ、国際的に活躍できる技術者を養成する。
(コミュニケーション能力)

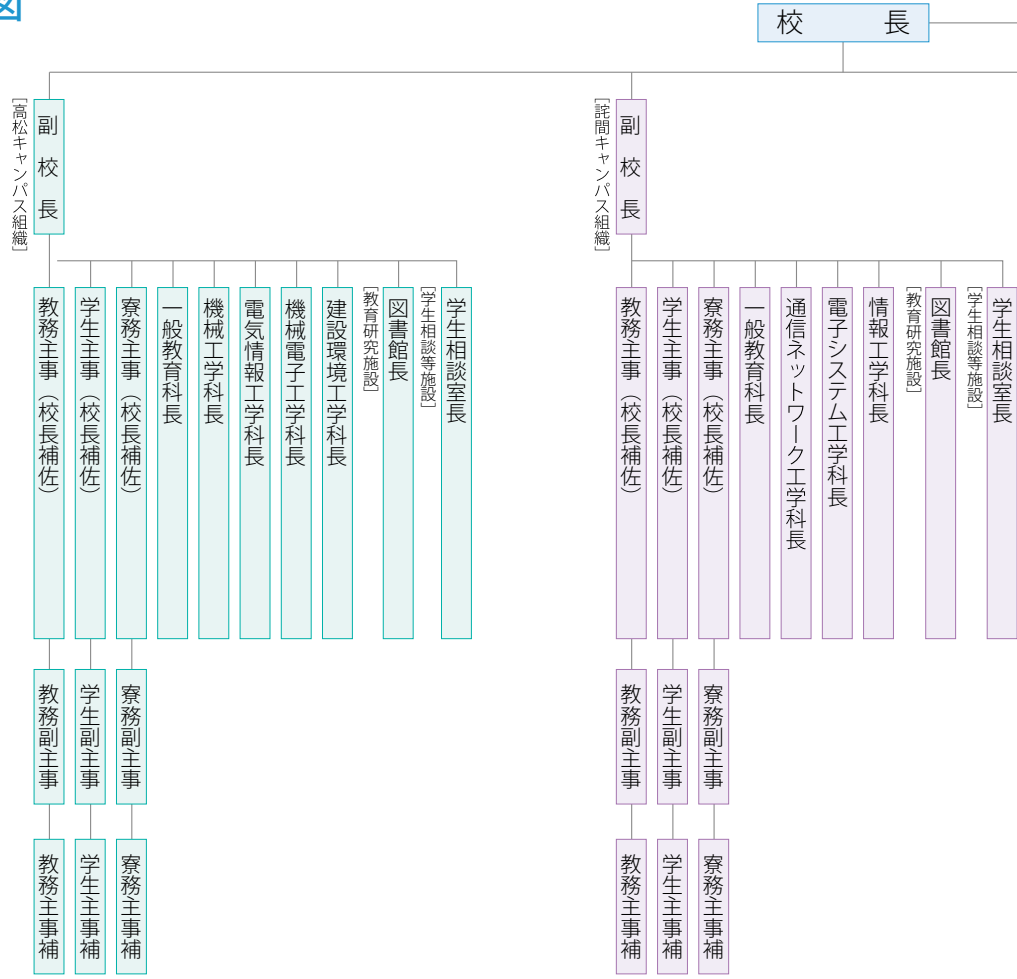


この図案は、知識・倫理・実行力を三位一体として、技術を磨きつつ人格の形成を目指し、これを基本として論理的な思考力・表現力でグローバルなコミュニケーションを通して社会に貢献すると共に、その影響・効果に責任を持ち、常に技術の修得に上昇志向で取り組むことを旨としています。

赤は情熱的な果敢な精神を、緑は穏やかな癒しの精神を、青は知識の泉を表しています。同時に RGB は光の三原色であり、上記の三位一体の概念を含ませています。これに加えて、橙色は自由な精神とグローバル性を表しています。

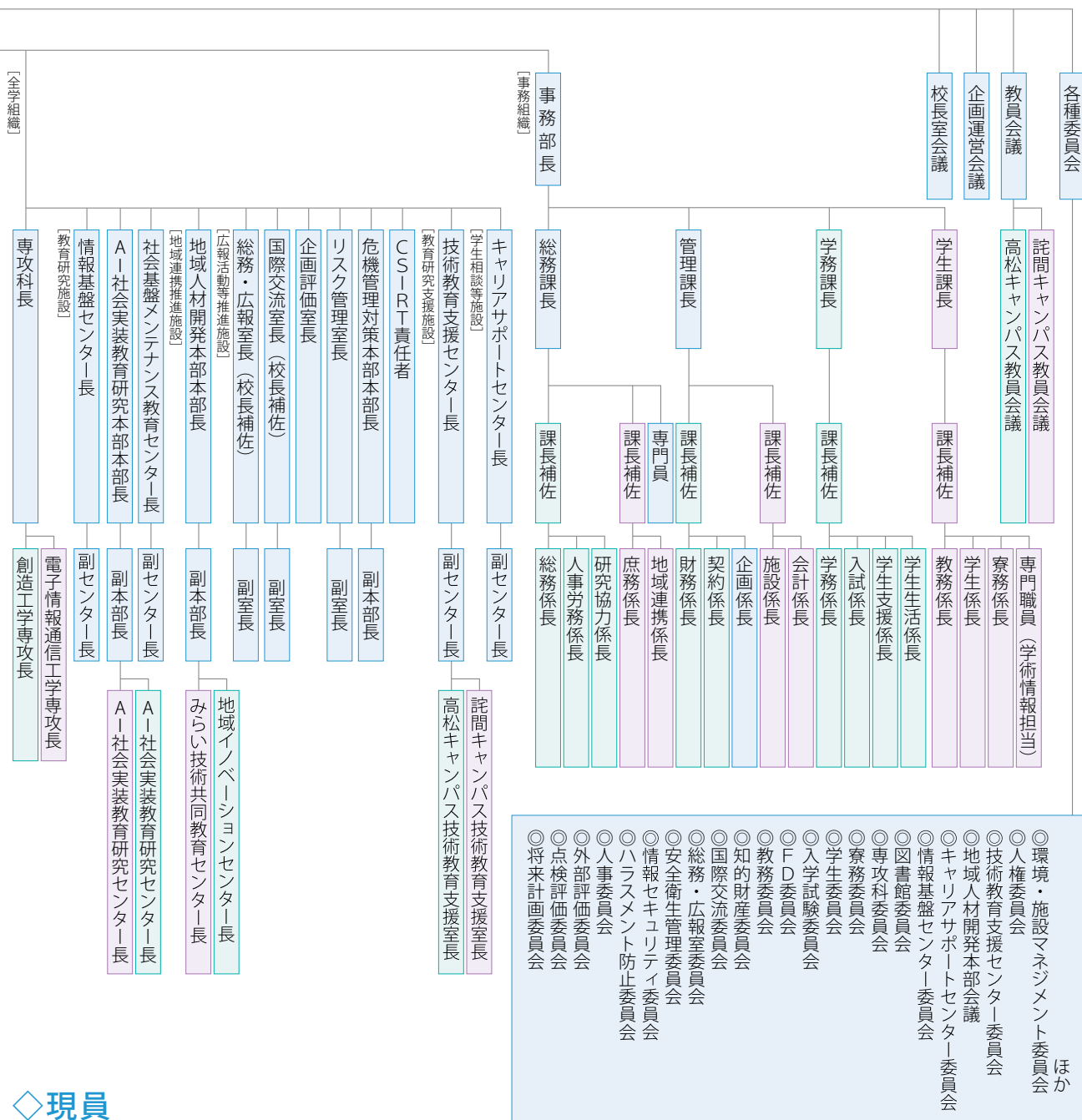
組織

◇組織図



◇役付職員

	役 職 名	氏 名		役 職 名	氏 名		役 職 名	氏 名
	校長	田中 正夫		副校長	澤田 士朗	全学組織 (専攻科)	専攻科長	重田 和弘
高松キャンパス	副校長	澤田 功	詫間キャンパス	教務主事 (校長補佐)	南 貴之	(専攻科)	創造工学専攻長	重田 和弘
	教務主事 (校長補佐)	小島 隆史		学生主事 (校長補佐)	富士原伸弘	(教育研究施設)	電子情報通信工学専攻長	長岡 史郎
	学生主事 (校長補佐)	吉澤 恒星		寮務主事 (校長補佐)	真鍋 克也		情報基盤センター長	白石 啓一
	寮務主事 (校長補佐)	上代 良文		一般教育科長	有馬 弘智		AI社会実装教育研究本部部長	三崎 幸典
	一般教育科長	中瀬巳紀生		通信ネットワーク工学科長	井上 忠照		AI社会実装教育研究センター長	三崎 幸典
	機械工学科長	山崎容次郎		電子システム工学科長	矢木 正和	(地域連携推進施設)	AI社会実装教育研究センター長	徳永 秀和
	電気情報工学科長	辻 正敏		情報工学科長	徳永 修一		社会基盤メンテナンス教育センター長	林 和彦
	機械電子工学科長	正箱信一郎		図書館長	河田 純		地域人材開発本部副本部長	向谷 光彦
(教育研究施設)	建設環境工学科長	宮崎 耕輔	(教育研究施設)	学生相談室長	金澤 啓三		みらい技術共同教育センター長	三崎 幸典
(学生相談等施設)	図書館長	田口 淳	(学生相談等施設)				地域イノベーションセンター長	向谷 光彦
	学生相談室長	野田 数人				(広報活動等推進施設)	総務・広報室長 (校長補佐)	宮武 明義
							国際交流室長 (校長補佐)	青城 秀之
						(教育研究支援施設)	技術教育支援センター長	澤田 功
						(学生相談等施設)	キャリアサポートセンター長	徳永 秀和
						事 務 部	事務部長	早竹 昭人
							総務課長	藤原 祐子
							管理課長	山口 法男
							学務課長	宮脇みどり
							学生課長	堀入 英次



◆現員

教員職員数

区分	校長	教授	准教授	講師	助教	助手	合計
現員	1	32	35	19	18	0	105

令和3年5月1日現在

事務部職員数

区分	事務系	技術系	合計
現員	57	25	82

令和3年5月1日現在

本科

一般教育科 Department of General Education

一般教育は社会人としての教養を養い、各専門学科に必要な基礎学力を培います。また、専門教育と補い合い、学生を、総合的判断力を持った創造性豊かな技術者に育てることを目指しています。教育内容は、3学年まではほぼ高等学校と同じ内容ですが、専門科目の基礎となる数学に多くの時間を充てています。4、5学年では大学の教養課程レベルの内容を扱い、この間に修得した単位は、専攻科進学後や大学3学年編入学後も修得単位として認められています。

1. 社会や文化に広く関心を持ち、より広い視野に立って物事を捉えることができる人間を育成する。
2. 自然科学（数学・物理・化学）に対する基礎的な知識を持った人間を育成する。
3. 社会性と協調性を持ち、自主的に礼儀正しく行動しようとする人間を育成する。
4. 自分の考えを論理的に伝えることのできる基礎的なコミュニケーション能力を持った人間を育成する。

一般教育科教員（高松キャンパス）

職 名	学 位	氏 名	主担当科目〔本科（準学士課程）／専攻科（学士課程）〕
教 授	理学修士	高橋 宏明 TAKAHASHI, Hiroaki	数学ⅠA, 数学ⅠB, 数学ⅠC, 数学ⅠD
	博士（工学）	岡野 寛 OKANO, Hiroshi	ブレ研究, 化学Ⅰ, 化学Ⅱ, 物理化学基礎／分析化学, 技術者倫理
	教育学修士	田口 淳 TAGUCHI, Jun	社会Ⅱ, 人文科学Ⅱ, 語学特講Ⅰ・Ⅱ（ドイツ語）, 表現コミュニケーションⅠ
	修士（体育学）	中瀬 巳紀生 NAKASE, Mikio	保健・体育Ⅰ, 保健・体育Ⅱ, 保健・体育Ⅲ, 保健・体育Ⅴ
	博士（理学）	澤田 功 SAWADA, Isao	工学リテラシー, 物理学Ⅰ, 物理学Ⅱ／応用物理学
	博士（理学）	橋本 典史 HASHIMOTO, Norifumi	数学ⅡA, 数学ⅡC, 環境化学／分析化学
	修士（体育学）	吉澤 恒星 YOSHIZAWA, Kousei	保健・体育Ⅰ, 保健・体育Ⅱ, 保健・体育Ⅴ
准教授	修士（教育学）	古庄 清宏 KOSHOU, Kiyohiro	英語ⅠA, 語学演習（科学英語）
	修士（文化史学）	與田 純 YODA, Jun	社会Ⅰ, 人文科学Ⅰ, 表現コミュニケーションⅠ
	博士（学術）	市川 研 ICHIKAWA, Ken	表現コミュニケーションⅡ
	修士（言語教育学）	鳥羽 素子 TOBA, Motoko	英語ⅠA
	Ph.D	佐藤 文敏 SATO, Fumitoshi	数学ⅢA, 数学ⅢB, 建設応用数学Ⅰ
講 師	修士（歴史学）	徳永 慎太郎 TOKUNAGA, Shintaro	英語ⅡA, 実践英語, 工業英語
	博士（文学）	野口 尚志 NOGUCHI, Naoshi	国語Ⅱ, 表現コミュニケーションⅠ, 文学特論Ⅰ, 文学作品購読
	博士（工学）	立川 直樹 TACHIKAWA, Naoki	ブレ研究, 化学Ⅰ, 化学Ⅱ／物理化学, 分析化学
	博士（文学）	門脇 大 KADOWAKI, Dai	国語Ⅰ, 表現コミュニケーションⅠ, 文学特論Ⅰ
	博士（理学）	川村 昌也 KAWAMURA, Masaya	数学ⅡB, 数学ⅡD, 建設応用数学Ⅰ
	博士（理学）	野田 数人 NODA, Kazuto	工学リテラシー, 物理学Ⅰ, 物理学Ⅱ／現代物理学
	博士（理学）	白石 希典 SHIRAIISHI, Maresuke	数学ⅠB, 数学ⅠD／数学特論Ⅱ

- 理 科** 物理、化学の基礎的な学習、実験を通して現代科学の基本的な考え方、自然観を習得する。
将来必要となる理学、工学についての発展した内容を理解する上で土台となる基礎力を養う。
- 数 学** 演習などを通して、微分と積分を中心とした工学分野への応用を見込んだ数学の基礎学力を確実に身につける。
- 国 語** 現代文・古文・漢文を通して、情操を養い、他人の見方や考え方を知る。
また、日本語を正確に理解し使いこなすことができるようにし、表現力を磨く。
- 社 会** 一人の社会人として生きるために必要な基本的知識と、健全な批判力を養成する。そのために地歴と公民の分野の学習を通じて、世界と日本の社会や文化についての理解を深めるとともに、社会科学や人文科学への関心を育む。
- 英 語** 英語による基本的なコミュニケーションができるようにする。そのため、読む、書く、話す、聞くの4技能の基礎的な力を身につける。
さらに、英語を通じて世界の文化、技術、ものの見方などについて理解を深め、国際社会に対する関心を深める。
- 体 育** 様々なスポーツの実践を通して、社会性・協調性を養っていくとともに、課題解決のための実行力を身につける。

■一般教育科教員（詫間キャンパス）

職 名	学 位	氏 名	主担当科目〔本科（準学士課程）／専攻科（学士課程）〕
教 授	文学修士	畑 伸興 HATA, Nobuoki	英語ⅡA, 英語ⅢB, 英語特論Ⅱ
	理学修士	南 貴之 MINAMI, Takayuki	数学ⅠD, ⅡC, ⅡD, ⅢA, 数学概論Ⅰ／応用数学特論
		有馬 弘智 ARIMA, Hirotooshi	保健・体育Ⅰ, 保健・体育Ⅲ, 保健・体育Ⅳ, 保健・体育Ⅴ
	博士（文学）	富士原 伸弘 FUJIHARA, Nobuhiro	国語Ⅰ, 表現コミュニケーションⅠ, Ⅱ, 国語Ⅲ, 文学特論Ⅱ／文学特論
	博士（学術）	橋本 竜太 HASHIMOTO, Ryuta	数学ⅠA, ⅠB, ⅠD, ⅡD
准教授	博士（理学）	上原 成功 UEHARA, Shigenori	数学ⅠB, ⅠC, ⅠD, ⅡD
		横山 学 YOKOYAMA, Manabu	保健・体育Ⅱ, 保健・体育Ⅲ, 保健・体育Ⅳ, 保健・体育Ⅴ
	MA in Applied Linguistics 修士（文学）	森 和憲 MORI, Kazunori	英語ⅠA, 表現コミュニケーションⅠ, Ⅱ, 英語特論Ⅰ／コミュニケーション英語Ⅰ
	博士（社会学）	山岡 健次郎 YAMAOKA, Kenjiro	表現コミュニケーションⅠ, Ⅱ, 社会Ⅱ, グローバル・スタディーズ／技術者倫理
講 師	博士（理学）	竹中 和浩 TAKENAKA, Kazuhiro	化学Ⅰ, 数学ⅠD, ⅡD, 化学Ⅱ／物理科学特論
	修士（英語教授法）	盛岡 貴昭 MORIOK, Takaaki	英語ⅠB, 英語ⅢA／コミュニケーション英語Ⅱ
助 教	博士（工学）	白幡 泰浩 SHIRAHATA, Yasuhiro	数学ⅠD, ⅡD, 物理学Ⅰ, Ⅱ, 自然特論／物理科学特論
	博士（国文学）	森 あかね MORI, Akane	表現コミュニケーションⅠ, Ⅱ, 国語Ⅱ, 国語Ⅲ, 文学特論Ⅱ／文学特論
	博士（情報科学）	大橋 あすか OHASHI, Asuka	数学ⅠD, ⅡA, ⅡD, ⅢA

■教育課程

必修科目（両キャンパス共通）

授業科目		単位数	学年別単位数					備 考
			1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	
国 語	国語Ⅰ	2	2					留学生対象外 留学生対象
	国語Ⅱ	2		2				
	国語Ⅲ	2			2			
日本語								
社 会	社会Ⅰ	2	2					
	社会Ⅱ	2		2				
数 学	数学ⅠA	2	2					
	数学ⅠB	2	2					
	数学ⅠC	2	2					
	数学ⅠD	2	2					
	数学ⅡA	2		2				
	数学ⅡB	2		2				
	数学ⅡC	2		2				
	数学ⅡD	2		2				
	数学ⅢA	2			2			
	数学ⅢB	2			2			
理 科	物理学Ⅰ	2		2				
	物理学Ⅱ	2			2			
	化学Ⅰ	2	2					
	化学Ⅱ	2		2				
保健・体育	保健・体育Ⅰ	2	2					
	保健・体育Ⅱ	2		2				
	保健・体育Ⅲ	2			2			
外国語	英語ⅠA	2	2					
	英語ⅠB	2	2					
	英語ⅡA	2		2				
	英語ⅡB	2		2				
	英語ⅢA	2			2			
	英語ⅢB	2			2			
表現コミュニケーションⅠ		2	2					
表現コミュニケーションⅡ		2		2				
芸術		2	2					
小 計		62	24	24	14	0	0	



表現コミュニケーションの授業



物理実験室での実験



マルチメディア教室での授業

■主な取り組み

- ・コミュニケーション能力向上のため、プレゼンテーション・ソフト等により発表させています。また、日本語検定等の資格試験受験を勧め、チャレンジする機会を与えています。（国語）
- ・豊かな人間・情操を育てるような対話型学習を取り入れています。また、学生の関心をひく教材を提示しています。（社会）
- ・きめ細かい指導を行い、問題演習を行うことで基礎学力の定着を図っています。また、専門学科との連携を図りつつカリキュラムの見直しをしています。（数学）
- ・基礎力向上のため不断の取り組みをしています。学習到達度試験等に関連して、自主学習の促進とモチベーション向上を図っています。（理科）
- ・スポーツテスト、各実技テストを行うことで、運動能力の維持・向上を図っています。団体行動、ルール遵守を身につけさせ、コミュニケーション能力と問題解決能力を養います。（体育）
- ・TOEIC、英語検定等の資格試験にチャレンジさせています。また、実践的英語運用能力を身につけさせるため英会話セッション等を実施しています。（英語）

選択科目（高松キャンパス）

授業科目	単位数	学年別単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
文学特論Ⅰ	2				2	※	
人文科学Ⅰ	2				2	※	
人文科学Ⅱ	2				2	※	
人文科学Ⅲ	2				2	※	
社会科学Ⅰ	2				2	※	
社会科学Ⅱ	2				2	※	
社会科学Ⅲ	2				2	※	
化学概論Ⅰ	2				2	※	
化学概論Ⅱ	2				2	※	
体育Ⅰ	1				1		
体育Ⅱ	1					1	
英語ⅣA	2				2	※	
英語ⅣB	2				2	※	
英語ⅤA	2				2	※	
英語ⅤB	2				2	※	
語学特講Ⅰ	2				2	※	
語学特講Ⅱ	2				2	※	
語学特講Ⅲ	2				2	※	
語学特講Ⅳ	2				2	※	
海外英語演習	1				1		
計	37			(1)	5(27)	5(27)	

選択科目（詫間キャンパス）

授業科目	単位数	学年別単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
人文科学Ⅰ	2				2	※	
人文科学Ⅱ	2				2	※	
人文科学Ⅲ	2					2	※
人文科学Ⅳ	2					2	※
社会科学Ⅰ	2				2	※	
社会科学Ⅱ	2				2	※	
社会科学Ⅲ	2					2	※
社会科学Ⅳ	2					2	※
自然特論	2					2	※
体育Ⅰ	2				2		
体育Ⅱ	2					2	
英語特論Ⅰ	2				2	※	
英語特論Ⅱ	2					2	※
中国語Ⅰ	2				2	※	
中国語Ⅱ	2					2	※
海外英語演習	1				1		
教育支援活動	1			1			
計	32	(1)	(1)	(2)	14(2)	16(2)	

備考欄に※印のある科目は、学則第13条第4項により、45時間の学修をもって1単位とする。
計欄の（ ）数字は、いずれかの学年で習得できる単位（外数）

■主な実験等設備

	室 名	主 な 設 備
高松キャンパス	物理実験室	分光器、誘導コイル
	化学実験室	スパッタ装置、PHメータ、スクラパー付きドラフトチャンバー
	語学演習室	46 ブース、ラップトップコンピュータ46台、e-learning
詫間キャンパス	物理実験室	視聴覚機器
	化学実験室	超純水製造装置、スクラパー付きドラフトチャンバー、器具乾燥機
	マルチメディアラーニング・ラボ	48 ブース、コンピュータ48台、e-learning



外国人による英語授業



一般教育棟（高松キャンパス）



マルチメディア棟（詫間キャンパス）

創造基礎工学系〔高松キャンパス〕

機械工学科 Department of Mechanical Engineering

私たちの身近にあるあらゆる工業製品は高度な機械技術の産物であり、機械技術者の果たすべき役割は広く、かつ、重要です。そして、近年の技術革新により、コンピュータとエレクトロニクスが機械技術分野にも深く浸透しています。

そこで、機械工学科では、「力学を中心とした機械工学の知識とそれを応用した設計力を柱として、コンピュータ支援工学や電気工学などの周辺技術を身につけた、幅広い産業分野において創造力を発揮できる機械技術者を育成する」ことを目的としています。

■学科の教育目標

1. 数学、物理学などの自然科学や機械工学に関連する基礎知識を身につける。
2. 問題解決に取り組み、自主的、継続的に技術的問題に取り組む力を身につける。
3. 技術者としての社会に対する責任や倫理観について考える力を身につける。
4. 記述、説明、発表、あるいは討論できる論理的な思考力やプレゼンテーション能力を身につける。

■教育内容

1. 機械工学科では、実際に製品ができるまでを学び易くするため、その逆の流れ「製品→加工→設計(知能)→解析」を重視し、低学年では専門科目をスムーズに取り組めるように創造基礎工作実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを柱に、基礎機械力学、機械設計製図Ⅰ・Ⅱ、機械要素設計Ⅰ、加工学、プログラミング基礎や材料力学Ⅰなどを配置しています。
2. 4年次では、3年次までの学習内容をさらに発展させた材料力学Ⅱや機械要素設計Ⅱを始めとして、熱力学や水力学などの機械工学を形成する4大力学を学びます。また、総合的な設計力を高めるため、4単位のCADⅡを設定しています。
3. 5年次では、準学士課程の最終学年として、振動工学や制御工学の必修科目の他、伝熱工学、流体力学Ⅰ・Ⅱ、システム工学Ⅰ・Ⅱや計算力学など機械技術者にとり非常に有用な選択科目を履修できるようにカリキュラムを設定しています。また、卒業研究では、実験や解析技術などを駆使したテーマを設定し、基礎知識の修得と応用力の探求に努めています。

■教員

職 名	学 位	氏 名	主担当科目〔本科(準学士課程)／専攻科(学士課程)〕
教 授	博士(工学)	木原 茂文 KIHARA, Shigefumi	材料力学Ⅲ, 弾性力学, 機械工学実験Ⅰ／計算力学特論, 弾塑性力学, 工学実験・実習Ⅰ
	工学修士	山崎 容次郎 YAMASAKI, Yojiro	コンピュータ工学, 制御工学, 機械工学実験Ⅰ・Ⅱ
	博士(工学)	小島 隆史 KOJIMA, Takafumi	機械工学演習Ⅰ・Ⅱ, 熱力学, 伝熱工学, 熱機関, 機械工学実験Ⅱ／内燃機関工学, 工学実験・実習Ⅱ
	博士(工学)	吉永 慎一 YOSHINAGA, Shinichi	プログラミング基礎, 電気工学, 電子工学, システム工学Ⅰ・Ⅱ, 機械工学実験Ⅱ／工学実験・実習Ⅱ
	博士(工学)	上代 良文 JODAI, Yoshifumi	機械設計製図Ⅱ, CADⅡ, 水力学, 流体力学Ⅰ・Ⅱ, 機械工学実験Ⅰ
准教授	博士(工学)	徳田 太郎 TOKUDA, Taro	機械要素設計Ⅰ・Ⅱ, CADⅠ・Ⅱ, 材料学, 技術科学英語Ⅰ・Ⅱ／材料強度学特論
	博士(工学)	高橋 洋一 TAKAHASHI, Yoichi	加工学, 創造基礎工作実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ／工学実験・実習Ⅰ
講 師	博士(工学)	木村 祐人 KIMURA, Yuto	数値計算法Ⅰ・Ⅱ, 機械工学実験Ⅰ, 材料工学Ⅰ, メカトロニクス機構学／工学実験・実習Ⅱ
	博士(工学)	前田 祐作 MAEDA, Yusaku	工学リテラシー, 機械設計製図Ⅰ, 材料力学Ⅰ・Ⅱ, 機械工学実験Ⅰ／工学実験・実習Ⅱ
助 教	修士(工学)	高谷 秀明 TAKATANI, Hideaki	工業力学, 振動工学, 機械工学実験Ⅰ・Ⅱ／振動工学特論

■教育課程

授業科目	単位数	学年別単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	工学リテラシー	2					◎
	応用数学Ⅰ	2		2			
	応用数学Ⅱ	2			2		
	科学技術史概論	1				1	
	知的財産概論	1				1	
	機械工学演習Ⅰ	1	1				◎
	機械工学演習Ⅱ	1	1				◎
	工業力学Ⅰ	2		2			
	材料力学Ⅰ	2		2			
	材料力学Ⅱ	2			2		
	熱力学	2			2		
	水力学	2			2		
	振動工学	2				2	
	加工学	2		2			
	機械要素設計Ⅰ	1		1			
	機械要素設計Ⅱ	2			2		
	材料学	2		2			
	電気工学	1			1		
	制御工学Ⅰ	1				1	
	プログラミング基礎	2	2				◎
	数値計算法	2		2			
	機械設計製図Ⅰ	2	2				◎
	機械設計製図Ⅱ	2	2				◎
	CADⅠ	3		3			◎
	創造基礎工作実習Ⅰ	3	3				◎
	創造基礎工作実習Ⅱ	3		3			◎
	創造基礎工作実習Ⅲ	2		2			◎
	機械工学実験Ⅰ	3			3		◎
	機械工学実験Ⅱ	3				3	
	卒業研究	8				8	
	小計	64	8	8	18	14	16
選択科目	応用数学Ⅲ	2			2		※
	工業力学Ⅱ	2			2		※
	材料力学Ⅲ	2				2	※
	弾性力学	2				2	※
	伝熱工学	2			2		※
	流体力学Ⅰ	2			2		※
	電子工学	2			2		※
	コンピュータ工学	2			2		※
	機構学	2			2		※
	計算力学	2				2	※
	CADⅡ	4			4		
	科学技術英語	2			2		※
	熱機関	2				2	※
	制御工学Ⅱ	2				2	※
	流体力学Ⅱ	2				2	※
	校外実習	1			1		
	特別講義Ⅰ	1			1		
	特別講義Ⅱ	1			1		
	特別講義Ⅲ	1			1		
	特別講義Ⅳ	1			1		
	ブレ研究Ⅰ	1	1				
	ブレ研究Ⅱ	1		1			
	ブレ研究Ⅲ	1			1		
	ソフトウェア特別実習Ⅰ	4		4			
	ソフトウェア特別実習Ⅱ	4			4		
	ソフトウェア特別実習Ⅲ	4				4	
	小計	52	1	1	5	4(23)	18(23)
	開設単位数合計	116	9	9	23	18(23)	34(23)

備考欄に◎印のある科目は、香川高等専門学校学業成績の評価・評定並びに進級及び卒業の認定に関する規程第14条第1項第二号に定める各学科が指定する科目とする。

備考欄に※印のある科目は、学則第13条第4項により、45時間の学修をもって1単位とする。

計欄の() 数字は、いずれかの学年で修得できる単位 (外数)

■主な実験設備

室名	主な設備
工作実験室	超精密加工機、ワイヤ放電加工機、ホブ盤、精密旋盤、切削動力計
工作測定室	非接触式三次元測定機、表面粗さ測定機、微小硬度計、万能投影機
材料力学実験室	300kN 万能材料試験機、ねじり試験機、衝撃試験機、回転曲げ疲労試験機
材料実験室	金属顕微鏡、熱処理炉、ビデオマイクロスコープ、各種硬度計、強化加工装置
振動工学実験室	動電形加振機、振動計、FFTアナライザ
流体・風洞実験室	風速 40m/s 低乱風洞装置、熱線流速計、流体力学実験装置
熱工学実験室	熱交換器実験装置
内燃機関実験室	内燃機関性能試験装置、エンジン燃焼解析装置、排気ガス分析装置
制御工学実験室	DCサーボモータ実験装置、ベーシックFA学習キット
電子工学実験室	オシロスコープ、デジタルマルチメータ、ファンクションジェネレータ、直流電源
実習工場	旋盤、CNC旋盤、マシニングセンタ、フライス盤、研削盤、ボール盤



トマト収穫ロボットによる収穫実験



実習工場



CAD室での授業風景



ソーラーカーとエコカー

■主な取り組み

機械工学科では、座学や多くの実験実習を学ぶだけでなく、コミュニケーション力を有した実践的な機械技術者の育成を目指し、各種マシンを設計製作し大会に出場することを積極的に推進しています。例として、上に示した写真はソーラーカーレースとエコカーレースの全国大会の様です。これまで、素晴らしい成績を収めています。

電気情報工学科 Department of Electrical and Computer Engineering

電気情報工学科では、技術の高度化が進展する社会の中でも活躍し続けることのできる電気電子技術者及び情報通信技術者の育成を目指しています。そのため、数学・物理などを中心とした基礎学理や専門の基礎をじっくりと学び、その上に専門応用技術を学習し、技術者となるための基礎を習得します。これらと共に回路設計や卒業研究、組込み技術教育を軸とした各種実験・実習などを行い、技術者にとって必要な実践力や創造性、ならびに、ものづくりを行っていく上で欠かせないチームワークや協調性を身につけていきます。

■学科の教育目標

1. 技術の産物が社会や自然に及ぼす影響を判断できる力と責任感、倫理観を持つ。
2. 数学や物理等の基礎学理と専門基礎工学を十分に習得し、専門応用分野の急速な技術の進展に追従でき、生涯にわたる学習能力を有する。
3. 自主的に課題に取り組む姿勢と能力を身につけ、互いに協力して課題に取り組める。
4. 論理的な記述・表現ができる。

■教育内容

1. 低学年では、電気・電子・情報工学の専門を学ぶための導入科目として、電気基礎数学、電気基礎、電子工学基礎、計測工学基礎、情報処理基礎等の科目をくさび形に配置し、専門分野に対する興味を喚起させるとともに、専門工学を学ぶための基礎を養います。
2. 高学年では、工業数学、電気回路、電磁気学を配置し、電気・電子・情報工学の専門科目を学ぶための基礎を養います。それと共に、エネルギー環境工学、オペレーティングシステム、情報通信ネットワーク、計算機ハードウェア等を学ばせることにより、専門リテラシー、プログラミング能力を養います。
3. また、高学年では、電気・電子系科目と情報・通信系科目から構成される選択科目から希望する科目を学習させ、自らの方向性を見いださせながら、専門応用能力や生涯にわたる学習能力を高めます。
4. 回路設計や卒業研究、組込み技術教育を軸とした実験・実習を通して、実行力やコミュニケーション能力を養います。

■教員

職 名	学 位	氏 名	主担当科目〔本科（準学士課程）／専攻科（学士課程）〕
教 授	工学博士	鹿間 共一 SHIKAMA, Tomokazu	電子工学基礎、半導体物理／半導体工学
	博士（工学）	重田 和弘（兼任）＊ SHIGETA, Kazuhiro	情報処理基礎、マルチメディア工学／情報通信工学
	博士（工学）	辻 正敏 TSUJI, Masatoshi	電子回路、回路設計（電子）／マイクロ波工学、集積回路
	博士（工学）	漆原 史朗 URUSHIHARA, Shiro	計測工学、電気回路、制御理論／現代制御理論
准教授	博士（工学）	村上 幸一 MURAKAMI, Yukikazu	情報処理基礎、情報数学基礎、オペレーティングシステム
	博士（工学）	柿元 健 KAKIMOTO, Takeshi	電気回路、アルゴリズム、統計データ処理／プロジェクト管理論
講 師	博士（工学）	山本 雅史 YAMAMOTO, Masashi	電気物理、電気電子材料／電子物性
助 教	博士（情報学）	雛元 洋一 HINAMOTO, Yoichi	デジタル計測制御、信号処理
	博士（工学）	吉岡 崇 YOSHIOKA, Takashi	エネルギー環境工学／エネルギー変換工学
	博士（情報学）	北村 大地 KITAMURA, Daichi	工業数学、論理回路、回路設計（論理）／デジタル信号処理

＊専攻科創造工学専攻専任

■教育課程

授業科目	単位数	学年別単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	工学リテラシー	2					○
	応用数学Ⅰ	2		2			
	応用数学Ⅱ	2			2		
	科学技術史概論	1				1	
	知的財産概論	1				1	
	電気情報基礎Ⅰ	4	4				○
	電気情報基礎Ⅱ	4		4			○
	電気基礎	4		4			
	電子工学基礎	4		4			
	電磁気学Ⅰ	2			2		
	電気回路Ⅰ	2			2		
	論理回路	2			2		
	情報処理基礎	4		4			
	電子回路Ⅰ	1			1		
	情報数学	1			1		
	創造工学実験実習Ⅰ	2	2				○
	創造工学実験実習Ⅱ	4		4			○
	電気情報工学実験Ⅰ	4		4			○
	電気情報工学実験Ⅱ	4			4		○
	電気情報工学応用実験	4				4	
選択科目	卒業研究	8				8	
	回路設計	2				2	
	小計	64	8	8	18	14	16
	半導体物理	2				2	※
	電磁気学Ⅱ	2				2	※
	電気回路Ⅱ	2				2	※
	計測工学	2				2	※
	電気電子材料	2				2	※
	電子回路Ⅱ	2				2	※
	電子回路Ⅲ	2				2	※
	エネルギー変換工学	2				2	※
	制御工学	2				2	※
	電子デバイス	2				2	※
	通信工学	2				2	※
	情報通信ネットワーク	2				2	※
	アルゴリズム	2				2	※
	計算機アーキテクチャ	2				2	※
	オペレーティングシステム	2				2	※
	信号処理	2				2	※
	情報・符号理論	2				2	※
	知能情報処理	2				2	※
	数値解析	2				2	※
	統計データ処理	2				2	※
	科学技術英語	2				2	※
	校外実習	1				1	
	特別講義Ⅰ	1				1	
	特別講義Ⅱ	1				1	
	特別講義Ⅲ	1				1	
	特別講義Ⅳ	1				1	
	ブレ研究Ⅰ	1	1				
	ブレ研究Ⅱ	1		1			
	ブレ研究Ⅲ	1			1		
	ソフトウェア特別実習Ⅰ	4			4		
	ソフトウェア特別実習Ⅱ	4				4	
	ソフトウェア特別実習Ⅲ	4					
	小計	62	1	1	5	4(45)	6(45)
開設単位合計		126	9	9	23	18(45)	22(45)

備考欄に○印のある科目は、香川高等専門学校卒業成績の評価・評定並びに進級及び卒業の認定に関する規程第14条第1項第二号に定める各学科が指定する科目とする。

備考欄に※印のある科目は、学則第13条第4項により、45時間の学修をもって1単位とする。

計欄の() 数字は、いずれかの学年で修得できる単位 (外数)

■主な実験設備

室名	主な設備
制御システム実験室	3軸産業用ロボット、二慣性共振系実験装置、3.7kW級AC汎用モータ、対向負荷試験装置
電磁環境実験室	平等磁界暴露装置、磁界測定器、ワークステーション
パワーエレクトロニクス実験室	ACサーボ駆動ボールねじシステム、インバータ駆動誘導モータ制御システム
ソフトウェア工学実験室	マルチコアCPU計算機、統計解析ソフトウェア
無響室	計測用スピーカ、マイク
音響実験室	音響測定装置、超音波検出器、数値計算ソフトウェア
共同研究スペース(省メディア情報処理研究室)	マルチコアCPU計算機、GPU計算機、信号処理ソフトウェア
電気情報工学コース実験室(材料研究室)	大気圧プラズマ製膜装置、PL測定装置、波長可変VUV/VISレーザ分光システム、放電プラズマ生成装置、QMS、TMP式高真空装置、HW-CVD装置
ゼミ・談話室(知能情報研究室)	アイマークレコーダー、生体情報収集装置、画像解析サーバー
電子工学実験室	オシロスコープ、発振器、直流電源、デジタル周波数計、パルス回路実習装置
計測・制御実験室	SCRインバータ、電気機器実習装置、カーブトレーサ、ロジックアナライザ、プリント基板加工機
情報通信工学実験室	論理回路実習装置、半導体素子実習装置、演算回路実習装置、AD/DA変換実習装置



座学



実験実習



情報処理実習



回路設計 (電子回路)

■主な取り組み

電気情報工学科では「組込み技術」を軸とした実験・実習を行っています。特に組込み技術によるシステム開発では、ソフトウェアの知識だけではなく、ハードウェアの知識も必要とされることから、本科では回路設計科目などにより、ハードウェア技術の教育にも力を入れています。また最終的には、総合的な組込み制作実習課題を実施することにより、技術者として必要な実践力や創造性を育成する教育を行っています。

これら学生教育に加え、組込み技術セミナーや専門講習会など各種セミナーを開催し、地域技術者教育にも貢献しています。

機械電子工学科

Department of Electro-Mechanical Systems Engineering

機械工学、電気電子工学及びコンピュータ制御技術の融合した技術分野をメカトロニクスと呼びます。メカトロニクス技術を利用し、高機能な機械システムの設計・開発、生産・製造、運用・保守、検査・修理など（以上を総称して「モノづくり」という）に携わる実践的技術者の育成を目的にしています。

社会の要求に合わせた機械システムに係わるモノづくりのために、複数の技術分野にわたる基礎知識を活かし、課題を発見し解決する能力や、チーム作業における協調性やコミュニケーション能力を身につけ、全体を見渡してとりまとめを行う技術者の育成を目指します。

■学科の教育目標

1. 社会や文化に関する教養を身につけ、機械システムが社会や自然に及ぼす影響を考える能力を身につける。
2. メカトロニクス技術を利用し、高機能な機械システムの開発・生産に携わる能力を身につける。
3. メカトロニクス分野の知識を基に、与えられた課題に対し、創造性を発揮して問題解決する能力を身につける。
4. 論理的な説明能力と簡単な英語でのコミュニケーション能力を持ち、社会性・協調性を発揮し行動する能力を身につける。

■教育内容

1. 低学年（1年生～3年生）では、機械工学と電気電子工学、情報技術に関する授業科目をバランス良く配置し、機械電子工学科の専門基礎について学ばせます。
2. 低学年の実験実習では、機械系テーマと電気電子系テーマをそれぞれの分野の講義と連携して実施し、教室で学んだ知識を定着させます。
3. 高学年（4年生、5年生）では、機械工学、電気電子工学、制御・情報技術、メカトロニクスに関する発展科目を開講し、各分野の知識習得やコミュニケーション能力、課題解決能力向上を図ります。
4. 5年生では、卒業研究を通じて実践的な課題解決能力を高めます。

■教員

職 名	学 位	氏 名	主担当科目〔本科（準学士課程）／専攻科（学士課程）〕
教 授	博士（工学）	十河 宏行 SOGO, Hiroyuki	工業力学，メカトロニクス基礎Ⅲ，ロボット工学，機械設計工学／動力学特論
	博士（工学）	徳永 秀和 TOKUNAGA, Hidekazu	情報処理Ⅱ・Ⅲ，情報ネットワーク，統計解析／最適化論
	博士（材料科学）	相馬 岳 SOUA, Takeshi	機械材料学Ⅰ・Ⅱ，加工学基礎，創造機械電子基礎実験実習Ⅱ／エネルギー工学特論
准教授	博士（工学）	由良 諭 YURA, Satoshi	電気回路，電磁気学，システム制御工学Ⅰ，機械電子工学実験Ⅰ・Ⅱ／制御工学特論Ⅱ
	博士（工学）	嶋崎 真一 SHIMASAKI, Shin-ichi	機械電子数学，熱工学Ⅰ・Ⅱ，機械計測／伝熱工学特論
	博士（工学）	正箱 信一郎 SHOBAKO, Shinichiro	メカトロニクス基礎Ⅱ，材料力学基礎Ⅰ・Ⅱ，機械電子工学実験Ⅰ／先端接合工学
講 師	博士（医学）	石井 耕平 ISHII, Kohei	メカトロニクス基礎Ⅰ，創造機械電子基礎実験実習Ⅰ・Ⅲ，機械力学，流体工学Ⅰ・Ⅱ
	博士（工学）	津守 伸宏 TSUMORI, Nobuhiro	メカトロニクス基礎Ⅰ，創造機械電子基礎実験実習Ⅰ・Ⅲ，工学実験・実習Ⅰ
助 教	博士（工学）	川上 裕介 KAWAKAMI, Yusuke	メカトロニクス基礎Ⅲ，システム制御工学Ⅱ，機械電子工学実験Ⅱ／制御工学特論Ⅰ
	博士（工学）	山下 智彦 YAMASHITA, Tomohiko	メカトロニクス基礎Ⅱ，創造機械電子基礎実験実習Ⅱ・Ⅲ，基礎物理学Ⅰ，電子回路

■教育課程

授業科目	単位数	学年別単位数					備 考
		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	
必修科目	工学リテラシー	2					◎
	応用数学Ⅰ	2		2			
	応用数学Ⅱ	2			2		
	科学技術史概論	1				1	
	知的財産概論	1				1	
	電磁気学Ⅰ	2		2			
	加工学基礎	2	2				◎
	工業力学	2		2			
	材料力学基礎Ⅰ	2		2			
	機械設計工学	2			2		
	機械材料学Ⅰ	2			2		
	熱工学Ⅰ	1			1		
	流体工学Ⅰ	1			1		
	電気電子回路Ⅰ	2		2			
	情報処理基礎	2		2			
	メカトロニクス基礎Ⅰ	3	3				◎図学を含む
	メカトロニクス基礎Ⅱ	3	3				◎
	メカトロニクス基礎Ⅲ	3		3			
	メカトロニクスシステム設計	2			2		
	システム制御工学Ⅰ	2			2		
	技術科学表現演習	1		1			
	創造機械電子基礎実験実習Ⅰ	3	3				◎
	創造機械電子基礎実験実習Ⅱ	3	3				◎
	創造機械電子基礎実験実習Ⅲ	2		2			◎
	機械電子工学実験Ⅰ	4			4		◎
	機械電子工学実験Ⅱ	4				4	
	卒業研究	8				8	
	小 計	64	8	8	18	14	16
選択科目	材料力学基礎Ⅱ	2			2		※
	機械材料学Ⅱ	2			2		※
	熱工学Ⅱ	2			2		※
	流体工学Ⅱ	2			2		※
	電気電子回路Ⅱ	2			2		※
	情報処理A	2			2		※
	情報処理B	2			2		※
	システム制御工学Ⅱ	2			2		※
	機械力学	2			2		※
	ロボット工学	2			2		※
	機械計測	2			2		※
	統計解析	2			2		※
	科学技術英語	2			2		※
	電磁気学Ⅱ	2			2		※
	半導体工学基礎	2			2		※
	電子計測	2			2		※
	センサ工学	2			2		※
	校外実習	1			1		
	特別講義Ⅰ	1			1		
	特別講義Ⅱ	1			1		
	特別講義Ⅲ	1			1		
	特別講義Ⅳ	1			1		
	ブレ研究Ⅰ	1	1				
	ブレ研究Ⅱ	1	1				
	ブレ研究Ⅲ	1		1			
	ソフトウェア特別実習Ⅰ	4		4			
	ソフトウェア特別実習Ⅱ	4			4		
	ソフトウェア特別実習Ⅲ	4				4	
	小 計	54	1	1	5	4(27)	16(27)
開設単位数合計		118	9	9	23	18(27)	32(27)

備考欄に◎印のある科目は、香川高等専門学校学業成績の評価・評定並びに進級及び卒業の認定に関する規程第14条第1項第二号に定める各学科が指定する科目とする。

備考欄に※印のある科目は、学則第13条第4項により、45時間の学修をもって1単位とする。

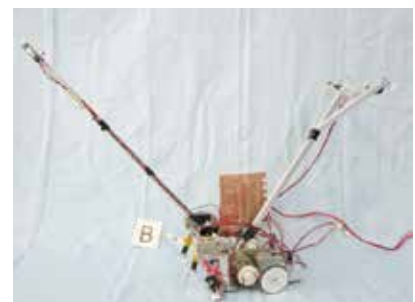
計欄の() 数字は、いずれかの学年で修得できる単位 (外数)

■主な実験設備

室 名	主 な 設 備
材料実験室	金属顕微鏡、熱処理炉、ビデオマイクロスコープ、各種硬度計、強加工装置
材料力学実験室 (恒温恒湿室)	300kN 万能試験機、ねじり試験機、衝撃試験機、回転曲げ疲労試験機
熱工学実験室	高周波誘導炉、エレクトロメーター、変位計、高速ビデオカメラ、熱交換器実験装置
電子工学実験室／電子制御実験室	オシロスコープ、デジタルマルチメータ、ファンクションジェネレータ、電子電圧計、ユニバーサルカウンタ、直流電源、PCB-CAD/CAM
CAD 室	プロジェクタ、パーソナルコンピュータ、3次元CAD
演習室	プロジェクタ、パーソナルコンピュータ、3次元CAD、3Dプリンタ
制御工学実験室	温度制御実験装置、水位制御実験装置
FA 実習室	3Dモデリングマシン、立てフライス盤、ボール盤、帯鋸盤
工作測定室	空気マイクロメータ、オートコレメータ、指針計微器、工具顕微鏡
実習工場	旋盤、ボール盤、フライス盤、鋸盤、マシニングセンタ、各種溶接機



メカトロニクスシステム設計



自律型ロボット製作例



機械部品の加工・製作



電子部品の試験・調査

■主な取り組み

低学年（1年生～3年生）の専門科目では、40名クラスを2つに分けた少人数授業（メカトロニクス基礎、実験実習）を取り入れ、論理的な表現力を培う日本語修辞法の授業（技術科学表現演習）を開講します。高学年（4年生・5年生）では、低学年で学んだ知識を実践し課題解決能力を養う実践科目（メカトロニクスシステム設計 / 機械電子工学実験Ⅰ、卒業研究）を開講し、「モノづくり」をキーワードに広く関連分野を学習します。

建設環境工学科 Department of Civil Engineering

建設環境工学科では、土木工学を中心に、安全で安心な公共の建設構造物の設計・施工・計画の基礎的な技術を身につけ、社会的にも大きな課題となっている環境保全技術、防災・減災技術、維持・管理・修繕技術、リサイクル技術、コンピュータ利用技術などの応用分野にも対応できる建設技術者の育成を目指しています。そのために、専門を学ぶための基礎的な学力を土台に専門基礎技術や専門応用技術を学習し、建設環境技術者となるための基礎学力の習得を重視しています。また、専門技術の習得を確実にするために、実験・実習、設計製図や創成工学などのデザイン系科目などを学習することにより、建設環境技術者として必要な実践力や創造力を涵養するとともに、発表会や報告会などを通してコミュニケーション能力を身につけていきます。

■学科の教育目標

1. 広い視野を持ち、環境問題やエネルギー問題などを認識し、技術者としての倫理観を高める。
2. 数学、物理などの自然科学に関する基礎知識を持ち、それを土台として専門基礎技術を習得する。
3. 各種実験・実習、設計製図やデザイン系科目などの学習により、実践力や創造力を涵養する。
4. 多くの様々な報告書作成やその発表を通してコミュニケーション能力を高める。

■教育内容

1. 第1、2学年では、一般教養科目を中心に学習すると同時に、専門は土木工学基礎、測量、構造力学Ⅰ、建設情報処理などの科目を配置して専門基礎技術を学ぶための導入としています。
2. 第3学年では、一般教養科目と専門基礎科目をほぼ同等に配置し、特に専門は構造力学Ⅰ、水理学Ⅰ、土質力学Ⅰ、建設材料学などを柱とする構造物の設計や施工にかかわる重要な専門基礎技術に関する知識を学びます。
3. 第4、5学年では、ほとんどが専門科目であり、鋼構造物・コンクリート構造物の設計、環境工学、計画学などの専門応用技術の一部が配置され、実験・実習、設計製図や創成工学などのデザイン系科目、卒業研究などにより、実践力、創造力、総合力を高めます。

■教員

職名	学位	氏名	主担当科目〔本科（準学士課程）／専攻科（学士課程）〕
教授	博士（工学）	向谷 光彦（兼任）* MUKAITANI, Mitsuhiro	工学リテラシー、建設環境実験実習Ⅰ、実験実習Ⅱ、土質力学Ⅰ、防災工学基礎、地域防災学／環境防災工学Ⅱ、情報システム、建設工学演習、輪講Ⅰ・Ⅱ
	博士（工学）	宮崎 耕輔 MIYAZAKI, Kosuke	測量学Ⅰ、地域整備学、建設環境実験実習Ⅱ／建設数理計画学、実験実習Ⅱ、建設工学演習、輪講Ⅰ・Ⅱ
	博士（工学）	多川 正 TAGAWA, Tadashi	工学リテラシー、建設環境実験実習Ⅰ、土木工学基礎、環境工学Ⅰ・Ⅱ、環境アセスメント、実験実習Ⅲ、環境工学特論、地域環境学／環境倫理・マネジメント、建設工学演習、輪講Ⅰ・Ⅱ
准教授	博士（工学）	荒牧 憲隆 ARAMAKI, Noritaka	工学リテラシー、土木工学基礎、土の力学、実験実習Ⅱ、地盤工学／環境防災工学Ⅰ、建設工学演習、輪講Ⅰ・Ⅱ
	博士（工学）	柳川 竜一 YANAGAWA, Ryoichi	工学リテラシー、建設環境実験実習Ⅰ、応用情報処理、河川・海洋工学Ⅰ、水理学、海洋工学、建設情報処理Ⅱ、応用数学Ⅱ、実験実習Ⅲ／流体力学特論、建設工学演習、輪講Ⅰ・Ⅱ
	博士（工学）	林 和彦 HAYASHI, Kazuhiko	工学リテラシー、建設環境実験実習Ⅰ、構造力学Ⅰ、土木工学概論、建設構造設計学、設計製図Ⅰ・Ⅱ、実験実習Ⅱ／構造解析学、建設工学演習、輪講Ⅰ・Ⅱ
講師	博士（工学）	今岡 芳子 IMAOKA, Yoshiko	建設環境実験実習Ⅰ、土木工学基礎、測量学Ⅰ、建設環境実験実習Ⅱ、計画学基礎／社会基盤計画学、都市デザイン、建設工学演習、輪講Ⅰ・Ⅱ
	博士（農学）	高橋 直己 TAKAHASHI, Naoki	建設環境実験実習Ⅰ、建設情報処理、水理学Ⅰ、河川水文学、工学演習Ⅱ、応用データ処理学、実験実習Ⅲ／建設工学演習、輪講Ⅰ・Ⅱ
助教	博士（工学）	松本 将之 MATSUMOTO, Masayuki	構造力学Ⅱ、実験実習Ⅱ／耐震設計学、建設工学演習、輪講Ⅰ・Ⅱ
	博士（農学）	長谷川 雄基 HASEGAWA, Yuki	構造工学、建設材料学、建設環境実験実習Ⅰ、建設構造設計学、工学演習Ⅲ／維持管理工学、建設環境実験実習Ⅲ、建設工学演習、輪講Ⅰ・Ⅱ

*専攻科創造工学専攻専任

■教育課程

授業科目	単位数	学年別単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	工学リテラシー	2	2				○
	応用数学Ⅰ	2		2			
	応用数学Ⅱ	1			1		
	科学技術史概論	1				1	
	知的財産概論	1				1	
	構造力学Ⅰ	2	2				○
	構造力学Ⅱ	2		2			
	構造力学Ⅲ	1			1		
	建設構造設計Ⅰ	2			2		
	建設材料科学	2		2			
	土質力学Ⅰ	1		1			
	土質力学Ⅱ	1			1		
	建設マネジメント	1				1	
	水理学Ⅰ	1		1			
	水理学Ⅱ	1			1		
	河川・海岸工学Ⅰ	1		1			
	環境工学Ⅰ	2		2			
	環境工学Ⅱ	1			1		
	建設情報処理Ⅰ	2	2				○
	建設情報処理Ⅱ	2		2			
	測量Ⅰ	2	2				○
	計画Ⅰ	1			1		
	計画Ⅱ	1				1	
	建設設計製図Ⅰ	1			1		
	建設設計製図Ⅱ	1				1	
	建設環境実験実習Ⅰ	4	4				○
	建設環境実験実習Ⅱ	2		2			○
	建設環境実験実習Ⅲ	4			4		○
	建設環境実験実習Ⅳ	4				4	○
	建設環境実験実習Ⅴ	3				3	
	土木工学基礎	2	2				○
	土木工学概論	1		1			○
	創成工学	1			1		○
	卒業研究	8				8	
小計		64	8	8	18	14	16
選択科目	建設構造設計Ⅱ	2				2	※
	土質力学Ⅲ	2				2	※
	河川・海岸工学Ⅱ	2				2	※
	応用力学	2				2	※
	環境工学Ⅲ	2				2	※
	環境アセスメント	2				2	※
	建設情報処理Ⅲ	2				2	※
	測量Ⅱ	2				2	※
	防災工学	2				2	※
	応用数学Ⅲ	2				2	※
	科学技術英語	2				2	※
	校外実習	1				1	
	特別講義Ⅰ	1				1	
	特別講義Ⅱ	1				1	
	特別講義Ⅲ	1				1	
	特別講義Ⅳ	1				1	
	ブレ研究Ⅰ	1	1				
	ブレ研究Ⅱ	1		1			
	ブレ研究Ⅲ	1			1		
	ソフトウェア特別実習Ⅰ	4			4		
	ソフトウェア特別実習Ⅱ	4				4	
	ソフトウェア特別実習Ⅲ	4					
小計		42	1	1	5	4(25)	6(25)
開設単位数合計		106	9	9	23	18(25)	22(25)

備考欄に○印のある科目は、香川高等専門学校学業成績の評価・評定並びに進級及び卒業の認定に関する規程第14条第1項第二号に定める各学科が指定する科目とする。

備考欄に※印のある科目は、学則第13条第4項により、45時間の学修をもって1単位とする。

計欄の() 数字は、いずれかの学年で修得できる単位(外数)

■主な実験設備

室名	主な設備
構造工学実験室	構造物可変載荷装置、はり試験装置、50kN万能試験機、サーボ式二軸振動台、二次元実験土槽
材料工学実験室	3000kN全自動圧縮試験機、1000kN万能試験機、構造物静的載荷装置、強制式二軸コンクリートミキサー、コンクリート端面研磨機、凍結融解試験機、各種コンクリート試験機器、コンクリート養生槽
流体工学実験室	多目的三次元水路、可変開水路、造波水槽、刃型ゼッキ、管水路、波高計、各種測定器
地盤工学実験室	自動圧密試験機、50kN万能圧縮試験機、繰返し三軸圧縮試験機、汎用大型一面せん断試験機、加圧型変水位透水試験機、B型粘度計、高速度カメラ、各種土質試験機器
環境工学実験室	全有機炭素計、イオンクロマトグラフ、ガスクロマトグラフ、CHNコーダー、オートクレープ、遠心分離器、超純水製造装置、酸性雨採取装置、電子天秤、恒温炉
器材室	GNSS測量システム、地理情報システム、リモートセンシング、トータルステーション、デジタル式トランジット、オートレベル、光波測距儀、平板、プランニメーター、実体顕鏡



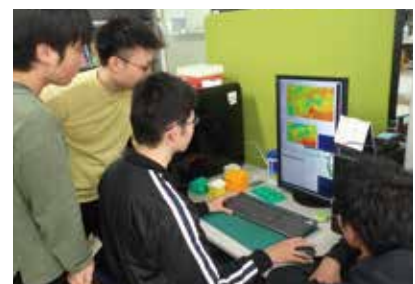
はりのたわみ実験



測量実習



水理実験



数値モデル解析

■主な取り組み

建設環境工学科では、様々な社会のニーズに対応できる技術者を育成するため、専門基礎技術の習得に力を注いでいます。同時に環境・防災・計画・情報処理をテーマとした幅広い知識と技術を習得します。習得事項の達成度を評価する一助として、技術士(一次試験)、測量士・士補、国家公務員一般職、基本情報技術者、環境社会検定などの資格試験に挑戦することを奨励しています。課外活動として、たかまつ土木女子の会、デザイン構造研究会、ACOサークルを行っています。

電子情報通信工学系〔詫間キャンパス〕

通信ネットワーク工学科

Department of Communication Network Engineering

すべての産業・社会活動では今や情報通信が必要不可欠となっています。この社会の神経というべき情報通信を支えるのが、地球上に張り巡らされた電線、光ファイバ、電磁波からなるネットワークと無数のコンピュータです。

通信ネットワーク工学科は、この広くて魅力ある情報通信分野に貢献できる優秀なコミュニケーション技術者、コンピュータネットワーク技術者の養成を目的としています。第一級陸上特殊無線技士、第一級陸上無線技術士などの国家資格の取得に向けたカリキュラムを編成しています。

■学科の教育目標

1. 情報通信分野の技術に必要なコンピュータ、ネットワーク、エレクトロニクスの知識を身につけ技術者倫理を有する。
2. 無線・有線通信に関する資格を取得するとともに、技術の変化に対応できる。
3. 既成概念にとらわれず、工学技術の創意工夫と向上に努力し、共同作業ができる。
4. 情報機器を用い、情報収集、文書作成および発表ができる。

■教育内容

1. 低学年では電気電子分野基礎科目である電気回路、電気磁気学、電子回路、電子工学、電気電子計測に加え情報分野基礎科目である情報処理を学び、高学年では通信分野科目、ネットワーク分野科目を学びます。
2. 創造性を育む教育を重視し、第1学年から第5学年まで通して実験・実習を配置し、特に第4・5学年の通信工学実験では回路を設計・製作・評価する実験を行います。
3. 第4学年では卒業研究へと繋がる通信工学セミナー、第5学年では卒業研究を行い、創造性豊かな実践的コミュニケーションシステム技術者、コンピュータネットワーク技術者を輩出できる教育を行います。
4. 卒業時に第一級陸上特殊無線技士の資格取得ができるように科目を配置しています。

■教員

職名	学位	氏名	主担当科目〔本科（準学士課程）/専攻科（学士課程）〕
教授	理学博士	澤田 士朗 SAWADA, Shiro	基礎工学演習, 応用物理Ⅰ・Ⅱ, 応用数学, 確率統計/量子力学, 応用電磁気学
	博士(工学)	井上 忠照(兼任)* INOUE, Tadaaki	電気回路Ⅱ, 工学演習, 通信工学セミナー, 電気通信システムA・B, 通信工学実験Ⅱ/通信工学
	博士(工学)	一色 弘三 ISSHIKI, Hiromi	基礎工学演習, 電気回路Ⅰ, 電気電子計測Ⅰ, 基礎工学実験, 通信工学セミナー, 通信工学実験Ⅰ
准教授	工学修士	真鍋 克也 MANABE, Katsuya	基礎工学実験・実習, 電波伝送学Ⅰ・Ⅱ, 無線工学演習, 工学演習/電磁波・光波工学
	情報工学修士	高城 秀之 TAKAJO, Hideyuki	創造実験・実習, 基礎工学実験・実習, コンピュータネットワークⅡ, 通信工学実験Ⅰ/情報ネットワーク論
	博士(工学)	正本 利行 SHOHON, Toshiyuki	基礎電気工学, 基礎工学実験, 電気磁気学Ⅰ・Ⅱ, 電子回路Ⅰ, 通信工学実験Ⅰ
	博士(理学)	桑川 一也 KUMEKAWA, Kazuya	情報処理Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, 工学演習, データ通信, 通信工学実験Ⅱ/グラフ理論
	博士(工学)	小野 安季良 ONO, Akira	基礎工学実験・実習, 無線通信工学Ⅰ・Ⅱ, 無線工学演習, 通信工学実験Ⅱ/システム制御工学
	博士(工学)	白石 啓一 SHIRAIISHI, Keiichi	デジタル回路Ⅰ, 基礎工学実験, コンピュータネットワークⅠ, 情報セキュリティ, 通信工学実験Ⅱ
	博士(工学)	川久保 貴史 KAWAKUBO, Takashi	創造実験・実習, 基礎工学実験, 電子工学, 通信法Ⅰ, 電気電子計測Ⅱ, 電子回路Ⅱ/光通信工学

*専攻科電子情報通信工学専攻専任

■教育課程

授業科目	単位数	学年別単位数					備 考
		1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	応用数学	2			2		
	確率統計	2		2			
	応用物理Ⅰ	2			2		
	基礎電気工学	2	2				
	情報処理Ⅰ	2	2				
	情報処理Ⅱ	2		2			
	デジタル回路Ⅰ	2	2				
	電気回路Ⅰ	2	2				
	電気回路Ⅱ	2		2			留学生対象外
	電気回路A	2		2			留学生対象
	電気磁気学Ⅰ	2		2			
	電気磁気学Ⅱ	2			2		
	電子回路Ⅰ	2		2			
	電子回路Ⅱ	2			2		
	電気電子計測Ⅰ	2		2			
	電子工学	2		2			
	無線通信工学Ⅰ	2			2		
	通信工学セミナー	4			4	○	
	基礎工学演習	2	2				
	工学演習	2		2			
	創造実験・実習	4	4				○
	基礎工学実験・実習	2		2			○
	基礎工学実験	2		2			○
	通信工学実験Ⅰ	4			4		○
	通信工学実験Ⅱ	4				4	
	卒業研究	8				8	
小 計		64	8	8	18	18	12
選択科目	応用物理Ⅱ	2				2	※
	情報処理Ⅲ	2			2		※
	電気電子計測Ⅱ	2				2	
	無線通信工学Ⅱ	2				2	※
	電波伝送学Ⅰ	2			2		
	電波伝送学Ⅱ	2				2	※
	電気通信システムA	2			2		※
	電気通信システムB	2				2	※
	通信法Ⅰ	2			2		※
	通信法Ⅱ	2			2		※
	コンピュータネットワークⅠ	2			2		※
	コンピュータネットワークⅡ	2				2	※
	情報理論	2				2	※
	無線工学演習	2			2		
	データ通信	2				2	※
	オプトエレクトロニクス	2				2	※
	情報数学	2				2	※
	情報セキュリティ	2				2	※
	ネットワークプログラミング	2				2	※
	校外実習	1				1	
	特別講義Ⅰ	1			1		集中講義
	特別講義Ⅱ	1				1	集中講義
	ブレ研究Ⅰ	1	1				
	ブレ研究Ⅱ	1		1			
	ブレ研究Ⅲ	1			1		
	研究基礎Ⅰ	1	1				
	研究基礎Ⅱ	1		1			
	研究基礎Ⅲ	1			1		
小 計		47	2	2	2	15(1)	25(1)
開設単位合計		111	10	10	20	33(1)	37(1)

備考欄に○印のある科目は、香川高等専門学校学業成績の評価・認定並びに進級及び卒業の認定に関する規程第14条第1項第二号に定める各学科が指定する科目とする。

備考欄に※印のある科目は、学則第13条第4項により、45時間の学修をもって1単位とする。

計欄の() 数字は、いずれかの学年で修得できる単位(外数)

■主な実験設備

室 名	主 な 設 備
電波暗室	EMILシーバ、CVC電源、広帯域アンテナ、擬似電源回路網、吸収クランプ、ターンテーブル、ベクトルネットワークアナライザ
電波応用実験室	レーダー、サテライトコンパス、AIS受信機、無線方位測定機、無線送信機、通信型受信機
フォトリソ実験室	サンプリングオシロスコープ、E0コンバータ、OEコンバータ、光パルス試験機
第3基礎通信工学実験室	パルスパターン発生器、符号誤り率検出器、光スペクトルアナライザ
情報ネットワーク演習室	LAN構築演習設備一式(ルータ、ハブ、無線LAN、PC)、マイコン演習器材



ワイヤレス通信実験



レーダ探索



光ファイバ通信



コンピュータネットワーク

■主な取り組み

通信ネットワーク工学科では、コンピュータネットワークの分野で必要とされるエンジニアになるために、コンピュータとコンピュータあるいはコンピュータと端末の間の通信について基礎から応用までの技術を修得できます。インターネット検定、ドットコムマスター(ダブルスター)あるいはシスコ技術者認定 CCNA に合格できるスキルを目指します。

また、無線・有線通信に関する基礎から応用までの技術を修得できます。無線従事者国家資格に関係して「第一級陸上特殊無線技士」「第二級海上特殊無線技士」を取得でき、「第二級陸上無線技術士」国家試験の科目免除を受けられます。また、「工事担任者」国家試験の科目免除を受けられます。

電子システム工学科 Department of Electronic Systems Engineering

エレクトロニクス、メカトロニクス、情報通信技術（ICT）の発展に伴い、エレクトロニクスの基礎から情報通信、コンピュータ、半導体デバイス、ロボット工学までの幅広い技術やそれらが融合した技術を持ったロボットエンジニア、デバイスエンジニアが囑望されています。

電子システム工学科では、電子工学の基礎からロボット工学、半導体デバイス工学を中心に、最先端の人工知能（AI）技術など幅広い分野の科目を自分で選択し勉強します。また授業と「ものづくり」中心の創造実験を効果的に組み合わせ、楽しみながら創造性豊かで個性的なロボット・デバイスエンジニアの育成を目指します。

■学科の教育目標

1. 電気・電子回路、半導体、コンピュータなどの専門科目を基礎とし、人工知能（AI）技術などを融合した最先端のものづくり教育によって、デバイスやロボットに関する実践的な専門技術を身につける。
2. 広い視野を持ち、設計、製作、問題発見、問題解決ができる。
3. 計画を立案し、継続して課題に取り組むことができる。
4. 物事を論理的に考え、文章や口頭で発表できる。

■教育内容

1. 低学年では工学導入教育を積極的に取り入れ、「ものづくり」の楽しさから興味を引き出し、工学基礎科目へ結びつけるような教育を行います。また基礎専門科目では、ロボットエンジニア、デバイスエンジニアに必要な弱電系基礎科目を基礎工学実験と連携し、実験・実習と理論が同時に教育できるようなカリキュラムとしています。
2. 高学年ではロボットエンジニアコースとデバイスエンジニアコースの2つのコースを選択でき、さらに人工知能（AI）技術等を融合させた最先端のものづくり教育を通して、より実践的な専門技術を身につけます。また、自分がどのような分野へ就職・進学したいかを考えながら、進みたい分野の専門科目をセミナー、卒業研究と連携し教育します。
3. 電子システムセミナー、卒業研究では学生一人一人が自分の研究テーマを持ち、担当教員の指導の下で1年間にわたって研究を行います。新しい知識を得るだけでなく、ロボット・デバイスエンジニアとしての研究に対する姿勢を身につけ、将来エンジニアとしての仕事に対する取り組み方を学ぶことを重要視しています。
4. 低学年の工学導入教育、基礎専門科目、基礎工学実験から高学年の電子システムセミナー、卒業研究でグローバル教育を積極的に行います。座学では身につけにくいグローバルコミュニケーションを実験・実習、基礎専門科目で取り入れ、将来世界で活躍できるロボットエンジニア、デバイスエンジニアを目指します。

■教員

職 名	学 位	氏 名	主担当科目 [本科 (準学士課程) / 専攻科 (学士課程)]
教 授	工学博士	長岡 史郎 NAGAOKA, Shiro	半導体デバイス工学, 電子材料工学, 工学実験Ⅰ・Ⅱ / 計測工学特論, 集積回路工学, 工業英語
	博士 (工学)	三崎 幸典 MISAKI, Yukinori	創造実験・実習, 電子工学, 基礎工学実験, 電子計測, 電子物性工学 / 知的財産権
		矢木 正和 YAGI, Masakazu	半導体工学, オプトエレクトロニクス, 工学実験Ⅰ・Ⅱ
准教授	博士 (工学)	月本 功 TSUKIMOTO, Isao	デジタル回路Ⅱ, 電子回路Ⅱ, 工学実験Ⅰ・Ⅱ / 電子回路特論, 情報工学概論
	博士 (工学)	三河 通男 (兼任) * MIKAWA, Michio	基礎電気工学, 電子回路Ⅰ, 電気通信システムA, データ通信, 工学実験Ⅱ
	修士 (教育学)	ジョンストン・ロバート・ウェストン JOHNSTON, Robert Weston	創造実験・実習, 基礎工学実験, 電子システム特講, 情報処理Ⅲ / 工業英語
	博士 (工学)	森宗 太郎 MORIMUNE, Taichiro	電気磁気学Ⅰ・Ⅱ, 基礎工学実験, センサ工学, 工学実験Ⅱ
講 師	博士 (工学)	清水 共 SHIMIZU, Tomo	電気回路Ⅰ, 電子回路Ⅰ, 応用物理Ⅱ, 工学実験Ⅰ・Ⅱ
	博士 (工学)	岩本 直也 IWAMOTO, Naoya	創造実験・実習, 電気回路Ⅱ・Ⅲ, 情報処理Ⅱ, 工学実験Ⅱ
助 教	博士 (工学)	大西 章也 ONISHI, Akinari	デジタル回路Ⅰ, 基礎工学実験, 制御工学Ⅱ, 工学実験Ⅱ / デジタル制御工学
	博士 (工学)	吉岡 源太 YOSHIOKA, Genta	デジタル回路Ⅱ, 情報処理Ⅰ, 基礎工学実験・実習, 制御工学Ⅰ, システム工学

* 地域人材開発本部専任

■教育課程

	授業科目	単位数	学年別単位数					備 考
			1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	
必修科目	応用数学	2			2	2		
	確率統計	2			2			
	応用物理Ⅰ	2				2		
	基礎電気工学	2	2					
	電気回路Ⅰ	2		2				
	電気回路Ⅱ	2			2			留学生対象外
	基礎電気回路	4			4			留学生対象
	電気磁気学Ⅰ	2			2			
	電気磁気学Ⅱ	2				2		
	電子工学	2			2			
	電子回路Ⅰ	2			2			
	電子回路Ⅱ	2				2		
	半導体工学	2				2		
	半導体デバイス工学	2					2	
	デジタル回路Ⅰ	2		2				
	デジタル回路Ⅱ	2			2			
	電子計測	2					2	
	制御工学Ⅰ	2				2		
	情報処理Ⅰ	2		2				
	情報処理Ⅱ	2			2			
	電子システムセミナー	4				4		○
	基礎工学演習	2	2					○
	創造実験・実習	4	4					○
	基礎工学実験・実習	2		2				○
	基礎工学実験	4			4			○
	工学実験Ⅰ	4				4		○
	工学実験Ⅱ	4					4	
	卒業研究	8					8	
	小 計	70	8	8	18	20	16	
	小計(留学生)	72	8	8	20	20	16	
選択科目	応用物理Ⅱ	2				2		※
	電気回路Ⅲ	2				2		※
	電子物性工学	2				2		※
	オプトエレクトロニクス	2				2		※
	電子材料工学	2				2		※
	制御工学Ⅱ	2				2		※
	ロボット工学	2				2		※
	センサ工学	2				2		※
	電子システム特講	2				2		※
	情報システム	2				2		※
	電気通信システムA	2				2		※
	情報処理Ⅲ	2				2		※
	データ通信	2					2	※
	画像工学	2					2	※
	システム工学	2					2	※
	校外実習	1					1	
	特別講義Ⅰ	1				1		集中講義
	特別講義Ⅱ	1					1	集中講義
	ブレ研究Ⅰ	1	1					
	ブレ研究Ⅱ	1		1				
	ブレ研究Ⅲ	1			1			
	研究基礎Ⅰ	1	1					
	研究基礎Ⅱ	1		1				
	研究基礎Ⅲ	1			1			
	小 計	39	2	2	2	11(1)	21(1)	
	開設単位合計	109	10	10	20	31(1)	37(1)	
	開設単位合計(留学生)	111	10	10	22	31(1)	37(1)	

備考欄に○印のある科目は、香川高等専門学校学業成績の評価・認定並びに進級及び卒業の認定に関する規程第14条第1項第二号に定める各学科が指定する科目とする。

備考欄に※印のある科目は、学則第13条第4項により、45時間の学修をもって1単位とする。

計欄の() 数字は、いずれかの学年で修得できる単位(外数)

■主な実験設備

室 名	主 な 設 備
共通実験室	液晶チューナブルフィルタ、冷却 CCD カメラ、マルチスペクトルイメージングシステム、ハイパースペクトルカメラ
計測工学実験室	電源電流テストによる開放故障検査装置、オシロスコープ、電流プローブ
計算機工学実験室	オシロスコープ、放射線検出器、アナログ波形計測処理システム
回路設計実験室	光電子分光装置、分光光度計、有機薄膜作製装置、光干渉型膜厚計、レーザ薄膜加工装置、原子間力顕微鏡
光エレクトロニクス実験室	蛍光分光光度計、量子効率測定システム、回折格子分光器、He-Cd レーザ、Ar イオンレーザ、極低温冷凍機
電子工学実験室	赤外線サーモグラフィ、汎用 3D プリンタ、3D スキャナ、卓上電子顕微鏡、無散瞳眼底カメラ、パルスオキシメータ
材料工学実験室	レーザ蒸着装置、スパッタリング装置、ホール効果測定装置
プラズマ焼結実験室	X 線回折装置、放電プラズマ焼結機



マインドストームを用いたロボット作製実験 (1・2 年)



英語による電気回路基礎実験 (3 年)



VHDL によるデジタル回路作製実験 (5 年)



地域連携型卒業研究 (5 年)

■主な取り組み

電子システム工学科の Keyword は「ものづくり」。低学年の楽しみながら工学に興味を持つための工学導入教育、授業と効果的にリンクした創造実験・実習、高学年での困難な問題に粘り強く取り組んで解決する問題解決能力を養う少人数設計製作実験、卒業研究では最先端の「ものづくり」に挑戦します。また実験実習科目や基礎専門科目でグローバル教育を積極的に取り入れ世界で活躍できるエンジニアを目指します。

また課外活動においても電子システム工学科が中心となって、ロボットコンテストやディープラーニングコンテストに出場、好成績を獲得するなど、「ものづくり」の活動を積極的に推進しています。

「情報」それは人と計算機をつなぐもの

本学科の専門教育では、計算機の基礎と応用についての知識と技術を教授するとともに、実際に計算機を利用して様々な問題解決ができる能力を育成します。さらに、計算機システムおよびソフトウェアシステム、ネットワークを利用するシステムに対して、工学的な手法によるシステムの設計、開発および実現に関する能力の育成を目指します。

また、画像や音声を利用したソフトウェアの開発やコンピュータシステムを構築できる情報システムエンジニア、ブロードバンド・インターネットを活用したソフトウェアの開発やコンピュータネットワークを構築できるネットワークエンジニアを育てます。

■学科の教育目標

1. 広い視野を持ち、社会の要求する情報システムを設計・構築できる。
2. コンピュータの基礎から応用まで体系的に理解し、コンピュータを活用できる。
3. 主体的に問題を提起し、継続して課題に取り組み、解決できる。
4. 文章能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を有する。

■教育内容

1. 基礎工学・理論、電気・電子工学、計算機システム、ソフトウェア、情報・通信システムおよびマルチメディア等関連技術の分野をバランスよく系統的に配置します。
2. 実務や新しい問題に創造的に立ち向かう方法や能力あるいは意欲を養うために、講義では、できる限り実習・演習をとりいれます。また、「卒業研究」等の問題解決型授業の教育効果を重視し、同様の形式で運用する「情報工学セミナー」を第4学年に導入します。
3. 工学実験では、実験を大きなテーマとして実施することにより、その中の個別の実験項目の意義を理解させます。また、テーマに対する巨視的な把握と理解を促し、これらを基礎に実践的かつ創造的な応用能力を育成します。
4. 情報工学関連技術の急激な進歩に対応できるように、選択科目の一部の内容については、柔軟な対応がとれるようにしています。

■教員

職名	学位	氏名	主担当科目〔本科（準学士課程）/専攻科（学士課程）〕
教授	博士（工学）	宮武 明義 MIYATAKE, Akiyoshi	情報処理Ⅰ，人工知能基礎，システムソフトウェア/応用ネットワークプログラミング
	博士（工学）	徳永 修一 TOKUNAGA, Shuichi	創造実験・実習，通信理論，情報特論Ⅰ，プログラミング言語，データベース/画像処理工学
	博士（工学）	金澤 啓三 KANAZAWA, Keizo	創造実験・実習，ソフトウェア設計論，画像工学/マルチメディア工学
准教授	博士（工学）	河田 純 KAWATA, Jun	基礎電気工学，電気回路Ⅰ，電気磁気学
	修士（工学）	近藤 祐史 KONDOH, Yuji	計算機アーキテクチャ，情報システムⅠ・Ⅱ，オートマトン理論，コンパイラ
	博士（理学）	奥山 真吾 OKUYAMA, Shingo	応用数学，確率統計，情報数学
	博士（エネルギー科学）	川染 勇人 KAWAZOME, Hayato	創造実験・実習，基礎情報工学，応用物理Ⅰ・Ⅱ，情報特論Ⅱ
	博士（工学）	篠山 学 SASAYAMA, Manabu	情報処理Ⅰ，システムプログラミング，自然言語処理/データベース設計
講師	博士（理学）	谷口 億宇 TANIGUCHI, Yasutaka	創造実験・実習，数値解析，情報構造論/アルゴリズムとデータ構造，オブジェクト指向プログラミング，工業数学
助教	博士（工学）	宮崎 貴大 MIYAZAKI, Takahiro	デジタル回路Ⅰ・Ⅱ，情報処理Ⅱ

■教育課程

授業科目	単位数	学年別単位数					備 考
		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	
必修科目	応用数学	2			2		
	確率統計	2		2			
	応用物理Ⅰ	2			2		
	基礎電気工学	2	2				
	電気回路Ⅰ	2	2				
	電子回路Ⅰ	2		2			
	デジタル回路Ⅰ	2	2				
	デジタル回路Ⅱ	2		2			
	基礎情報工学	2		2			
	計算機アーキテクチャ	2		2			
	情報処理Ⅰ	2	2				
	情報処理Ⅱ	2		2			
	ソフトウェア設計論	4		4			
	通信理論	2			2		
	情報構造論	2			2		
	コンパイラ	2			2		
	情報工学セミナー	6			6		◎
	基礎工学演習	2	2				
	情報工学演習	2		2			留学生対象
	創造実験・実習	4	4				◎
	基礎工学実験・実習	2		2			◎
	基礎工学実験	2		2			◎
選択科目	工学実験Ⅰ	4			4		◎
	工学実験Ⅱ	4				4	
	卒業研究	8				8	
	小 計	66	8	8	18	20	12
	小計(留学生)	68	8	8	20	20	12
	応用物理Ⅱ	2				2	※
	情報数学	2				2	※
	数値解析	2			2		※
	電気磁気学	2			2		※
	半導体工学	2				2	※
	システム工学	2				2	※
	システムプログラミング	2			2		※
	システムソフトウェア	2				2	※
	情報システム	2			2		※
	人工知能Ⅰ	2			2		※
	人工知能Ⅱ	2				2	※
	画像工学	2				2	※
	データベース	2				2	※
	コンピュータネットワークⅠ	2			2		※
	コンピュータネットワークⅡ	2				2	※
	情報セキュリティ	2				2	※
	校外実習	1				1	
	特別講義Ⅰ	1			1		集中講義
	特別講義Ⅱ	1				1	集中講義
	ブレ研究Ⅰ	1	1				
	ブレ研究Ⅱ	1		1			
	ブレ研究Ⅲ	1			1		
	研究基礎Ⅰ	1	1				
	研究基礎Ⅱ	1		1			
	研究基礎Ⅲ	1			1		
	小 計	41	2	2	2	13(1)	21(1)
	開設単位合計	107	10	10	20	33(1)	33(1)
	開設単位合計(留学生)	109	10	10	22	33(1)	33(1)

備考欄に◎印のある科目は、香川高等専門学校学業成績の評価・認定並びに進級及び卒業の認定に関する規程第14条第1項第二号に定める各学科が指定する科目とする。

備考欄に※印のある科目は、学則第13条第4項により、45時間の学修をもって1単位とする。計欄の() 数字は、いずれかの学年で修得できる単位(外数)

■主な実験設備

室 名	主 な 設 備
制御回路実験室	3D 入出力装置 (3D スキャナ、切削 RP マシン)、3D CAD・CAM ソフトウェア
基礎工学実験室	電子回路教育用設計・試作プラットフォーム、LabVIEW、電子回路シミュレータ
ネットワーク応用実験室	ネットワーク技術者育成実験システム (ルータ、L2、L3 スイッチ)
知識情報処理実験室	大容量テキスト解析用サーバ
ICT ラボ	80 型タッチディスプレイ
資料室	AI 学習用サーバ
画像情報処理実験室	組込み技術育成ロボット教材
共同利用実験室	3D コンテンツ作成システム



マイクロコンピュータ実験 (3 年)



コントロール実験



3D コンテンツの制作 (5 年)



プログラミングコンテストのデモ風景

■主な取り組み

情報工学科は学生活動の支援を第 1 に考え、試験前と試験中の土曜日に「土曜フリースクール」(学生からの質問や進路相談、授業の補講、追実験、卒業研究などに本科教員が対応)、「公開面接練習会」(5 年生を対象に本科教員が行う模擬面接)、「進路ガイダンス」(4 年生を対象に進学・就職が内定した 5 年生の体験談や心構えなどの助言)、「第 4、5 学年における継続的な研究活動」(4 年生から指導教員のもとで研究活動を開始し、5 年生の卒業研究まで 2 年間継続して研究を行う)を実施しています。また、「全国高専プログラミングコンテスト」に参加する学生を積極的にサポートしています。

専攻科

香川高等専門学校専攻科は、科学技術創造立国を目指す我が国において、分析・解析能力、創造的課題解決能力及び研究開発能力を身に付け、様々な産業分野において指導的役割を担える創造性豊かな実践的技術者を社会に送り出すとともに、共同研究等とおして地元産業、地域社会への積極的な貢献を行うことを目的としています。

この目的を達成するために、本専攻科では、高松キャンパスに創造工学専攻、詫間キャンパスに電子情報通信工学専攻を置いています。

専攻科修了時には、学士（工学）の学位が独立行政法人大学改革支援・学位授与機構から授与されます。本校専攻科には平成27年度より新たな審査方式による特例が適用されていますので、専攻科での審査によって学位が取得できます。また、大学院入学の資格も得られます。

専攻科の教育目標 〈育成しようとする技術者像〉

■創造工学専攻

1. 技術の産物が社会や自然に及ぼす影響を判断できる力と責任感、倫理観を養うため、人類、世界、文化に関心を持ち、視野の広い技術者を育成する。
2. 自然科学と専門技術の基礎を身につけ、それを具体的問題に応用できる技術者を育成する。
3. 自ら課題を発見して、自主的に取り組み解決する姿勢と能力を身につける。また互いに協力し合って課題に取り組める創造力豊かな技術者を育成する。
4. 物事を論理的に考えて、それを文章と口頭で明確に表現できる力を身につける。英語では基本的な記述、表現が行える語学力を身につけた技術者を育成する。

■電子情報通信工学専攻

1. 技術者としての責任を自覚し、人類の福祉に貢献できる倫理観を身につけた電子情報通信分野における実践的・高度開発型技術者を養成する。
2. 技術者としての基礎知識を身につけ、高度な関連技術を修得し、広い視野を持って技術の発展に対応できる技術者を養成する。
3. 与えられた課題を達成する手段を設計し、粘り強く問題解決に取り組むことができる技術者を養成する。
4. 情報機器を活用して情報収集や情報分析、文書作成、口頭発表ができ、日本語及び英語で共同作業ができる技術者を養成する。

■創造工学専攻（高松キャンパス）（入学定員 24 名）

創造工学専攻は、高専本科で修得した機械工学、電気情報工学、機械電子工学及び建設環境工学に関する分野の知識と技術を基礎として、より高度な専門知識を授けると共に、豊富な実験・実習、特別研究を通して問題解決能力、実行力を育成します。具体的には、以下に示す4つのコースのいずれかを選択し、技術者としての倫理観、責任感を育みながら、先進的実践的技術者の育成を目指します。

■機械工学コース

本コースは、機械工学の知識をベースに、社会性、経済性及び安全性に配慮し、既存の考え方だけでなく工夫考案したアイデアを設計指針に取り入れ、目的に合致した「モノづくり」を行うための幅広い思考力と独創性を身に付けた技術者を育成することを目標としています。

また、一方で、数学や力学などの機械工学に関する基礎知識に加え、先端技術である CAD / CAM（コンピュータ支援設計／製造）及び CAE（コンピュータ支援技術）、機械制御技術、情報処理技術などの科目をカリキュラムに取り入れ、機械工学を中心として工学全般にアプローチできる機械技術者を育成することを目標としたカリキュラムになっていることも特長です。

■電気情報工学コース

本コースは、本科で修得した電気回路や情報処理等の電気電子・情報通信分野における工学基礎と専門工学基礎を礎として、学習・教育目標をより高度な観点から完成させることを目的としています。また、最新のトピックを含めた専門科目を深く学ぶと共に、本科から一貫した研究テーマを追求し、その過程における討議、実験、推考を繰り返しながら着実に論理的な思考力と実行力を身につけることを目的とします。さらに、技術の習得を軸としながら、輪講や各種実習におけるコミュニケーションを通して技術者としての心構えや、人間性を確立することを目指します。

■機械電子工学コース

本コースは、本科の学習内容を継承して、機械工学、電子工学及びコンピュータ制御技術の融合したメカトロニクス分野の基礎知識と基本的問題への応用力をさらに高めるための教育を行います。また、講義、実験・実習、輪講、および充実した特別研究と学協会での研究発表等の経験をとおり、創意工夫して課題を解決する行動力、論理的な思考と表現力、幅広いコミュニケーション能力を身に付け、技術者としての責任感と倫理観を養います。これらの能力を基礎として、高度な機械システムの開発、設計および製作などの「モノづくり」を担う実践的技術者を育成することを目指します。

■建設環境工学コース

本コースでは、本科で修得した建設環境工学分野の知識と技術を基礎にして、より高度な専門的知識や技術を修得します。このために、建設環境工学分野のより高度な知識を得るための講義と共に、工学演習、実験実習、特別研究などの問題解決力、応用力、実行力、プレゼンテーション力などを養う科目を数多く開講しています。特別研究を特に重視しており、学外における論文発表や口頭発表を通して、論理的思考力、論文作成力、発表力などを養っています。

本コース修了生には、設計、計画、防災、環境などの専門知識を持った問題解決型建設技術者として、官公庁、コンサルタント、建設会社等への就職、及び大学院進学への道が開けています。

❖ 電子情報通信工学専攻（詫間キャンパス）（入学定員 18 名）

電子情報通信工学専攻では、専門性を深めながら、実践的で独創的な開発能力、コミュニケーション能力と自律性を備えた技術者を育成します。そのため、本専攻では、準学士課程から専攻科までの一貫した教育課程を用意しています。教育課程は、「教養科目」、「工学基礎科目」及び「専門科目」で構成されます。準学士課程の履修学科に対応した電子、情報、通信分野の専門性を高めるための科目を設けており、準学士課程からの継続的な学修ができます。専門分野の高度な知識・素養を身につけ複合領域にも対応できる幅広い視野を持ち、高い問題設定・解決能力を備えた実践的・創造的技術者の育成を目指します。

本専攻は、電気電子情報通信といった電気系の全ての分野を網羅していますので、専門知識を広く身につけることができます。さらに、他専攻や大学等で修得した単位が規程の範囲内で認められます。また、本専攻は特別研究や特別実験・演習を重視しています。特別研究では、指導教員とともに大学の研究者と連携した高度な研究、企業との共同研究、地域の産業振興に貢献できる研究や開発を行います。

さらに、自ら企業の技術者とともに共同研究にも取り組む機会を提供しています。地域の人と直接関わりながら地域の産業振興を推進するなど実践的で高度な研究や開発を行います。2 年次では、出身分野が異なる学生らとグループを組み、各自が身につけた専門知識や技能を活用し、コミュニケーションを取りながらシステムを構築するエンジニアリング・デザイン教育を実施しています。

これらの学修から、電子、情報、通信分野の高度な専門知識と技術を学び、職業に必要な能力を身につけることを目指します。ディジタルとアナログ技術や有線・無線通信技術の知見を深め、コンピュータ・ネットワーク技術分野で活躍できる技術者、第一級陸上無線技術士や電気通信主任技術者、工事担任者の国家資格取得を持つ技術者など、社会の要請を反映した技術者を育成します。

■創造工学専攻教育課程

区分	授業科目	授業形態	単位数	学年別配当				備考
				1年	2年	3年	4年	
教養科目	必修	経営論	講義	2	2			
	選択	実践英語	講義	2	2			
	必修	法学	講義	2		2		
	必修	文学作品講読	講義	2		2		
工学基礎科目	必修	技術者倫理	講義	2	2			
	必修	数学特論Ⅰ	講義	2	2			
	選択	現代物理学	講義	2		2		
	選択	知的財産権	講義	2		2		
	選択	工業英語	講義	2		2		
	選択	数学特論Ⅱ	講義	2		2		
	選択	物理化学	講義	2		2		
	選択	分析化学	講義	2			2	
	選択	応用物理学	講義	2	2			
	選択	海外語学研修	実習	1			1	
教養・工学基礎科目開設単位数計			27	11	10	6	0	
教養・工学基礎科目修得単位数計				16単位以上				
専門科目	必修	工学実験・実習Ⅰ	実験	2	2			
	必修	工学実験・実習Ⅱ	実験	2		2		イノベーション創出型連携教育プログラム履修生対象外
	必修	工学実験・実習A	実験	1		1		イノベーション創出型連携教育プログラム専用開講科目
	必修	工学実験・実習B	実験	1		1		イノベーション創出型連携教育プログラム専用開講科目
	必修	特別研究Ⅰ	実験	6		6		
	必修	特別研究Ⅱ	実験	10			10	イノベーション創出型連携教育プログラム履修生対象外
	必修	特別研究A	実験	8			8	イノベーション創出型連携教育プログラム専用開講科目
	必修	特別研究B	実験	2			2	イノベーション創出型連携教育プログラム専用開講科目
	必修	輪講Ⅰ	演習	2		2	1	
	必修	輪講Ⅱ	演習	2			2	
専門科目	選択	特別講義	講義	2		2		
	選択	インターンシップⅠ	実習	1		1		
	選択	インターンシップⅡ	実習	2		2		
	選択	インターンシップⅢ	実習	4		4		
	選択	インターンシップⅣ	実習	6		6		
	選択	内燃機関工学	講義	2	2			機械工学コース科目
	選択	計算力学特論	講義	2		2		
	選択	弾塑性力学	講義	2			2	
	選択	材料強度学特論	講義	2		2		
	選択	振動工学特論	講義	2	2			
	選択	信頼性工学	講義	2			2	
	選択	環境電磁工学	講義	2	2			電気情報工学コース科目
	選択	現代制御理論	講義	2	2			
	選択	エネルギー変換工学	講義	2			2	
	選択	プロジェクト管理論	講義	2		2		
	選択	電子物性	講義	2		2		
	選択	集積回路	講義	2		2		
	選択	半導体工学	講義	2			2	
	選択	パワーエレクトロニクス	講義	2			2	
	選択	情報通信工学	講義	2	2			
	選択	マイクロ波工学	講義	2			2	
	選択	デジタル信号処理	講義	2	2			
	選択	知識工学	講義	2		2		
	選択	画像処理工学	講義	2		2		
	選択	伝熱工学特論	講義	2	2			機械電子工学コース科目
	選択	動力学特論	講義	2	2			
	選択	最適化論	講義	2		2		
	選択	数値解析特論	講義	2			2	
	選択	先端接合工学	講義	2		2		
	選択	エネルギー工学特論	講義	2	2			
	選択	制御工学特論Ⅰ	講義	2		2		
	選択	制御工学特論Ⅱ	講義	2			2	
	選択	生体工学	講義	2	2			
	選択	光工学	講義	2		2		
	選択	耐震設計学	講義	2	2			建設環境工学コース科目
	選択	維持管理工学	講義	2			2	
	選択	構造解析学	講義	2		2		
	選択	交通計画	講義	2		2		
	選択	都市デザイン	講義	2	2			
	選択	環境防災工学Ⅰ	講義	2	2			
	選択	環境防災工学Ⅱ	講義	2			2	
	選択	流体力学特論	講義	2	2			
	選択	建設数理計画学	講義	2	2			
	選択	社会基盤計画学	講義	2		2		
	選択	情報システム	講義	2		2		
	選択	建設工学演習	演習	2		2		
	選択	環境倫理・マネージメント	講義	2			2	
専門科目開設単位数計			135	57	34	44	0	
専門科目修得単位数計				46単位以上				
教養・工学基礎・専門科目開設単位数合計			162	68	44	50	0	
修得単位数合計				62単位以上				



内燃機関の性能試験



土質材料の三軸圧縮実験



廃水の水質分析実験



揺らぎ回路の特性試験



モーションキャプチャーによる運動解析

電子情報通信工学専攻教育課程

区分	授業科目	授業形態	単位数	学年別配当				備考
				1年	2年	前期	後期	
教養科目	必修 コミュニケーション英語Ⅰ	講義	2	2				
	必修 コミュニケーション英語Ⅱ	講義	2		2			
	選択 文学特論	講義	2			2		
工学基礎科目	必修 技術者倫理	講義	2	2				
	選択 物理科学特論	講義	2		2			
	選択 応用数学特論	講義	2	2				
	選択 知的財産権	講義	2		2			
	選択 工業英語	講義	2	2				
	選択 工業数学	講義	2		2			
教養・工学基礎科目開設単位数計			18	8	8	2	0	
修得単位数計			必修6単位を含む14単位以上					
専門科目	必修 特別研究Ⅰ	実験	6	6				
	必修 特別研究Ⅱ	実験	4			4		
	必修 特別実験・演習Ⅰ	実験	4	4				
	必修 特別実験・演習Ⅱ	実験	6			6		
	選択 量子力学	講義	2				2	
	選択 情報工学概論	講義	2	2				
	選択 デジタル信号処理工学	講義	2			2		
	選択 応用電磁気学	講義	2	2				
	選択 グラフ理論	講義	2	2				
	選択 情報ネットワーク論	講義	2		2			
	選択 電子回路特論	講義	2		2			
	選択 計測工学特論	講義	2				2	
	選択 システム制御工学	講義	2			2		
	選択 アルゴリズムとデータ構造	講義	2	2				
	選択 マルチメディア工学	講義	2			2		
	選択 画像処理工学	講義	2				2	
	選択 通信工学	講義	2		2			
	選択 電磁波・光波工学	講義	2			2		
	選択 光通信工学	講義	2				2	
	選択 無線工学特論	講義	2				2	
	選択 応用電子物性工学	講義	2		2			
	選択 集積回路工学	講義	2			2		
	選択 デジタル制御工学	講義	2				2	
	選択 オブジェクト指向プログラミング	講義	2		2			
	選択 応用ネットワークプログラミング	講義	2			2		
	選択 データベース設計	講義	2				2	
	選択 特別講義	講義	2			2		
	選択 インターンシップⅠ	実習	1			1		
	選択 インターンシップⅡ	実習	2			2		
	選択 インターンシップⅢ	実習	4			4		
	選択 インターンシップⅣ	実習	6			6		
専門科目開設単位数計			79	28	15	17	19	
修得単位数計			必修20単位を含む48単位以上					
教養・工学基礎・専門科目開設単位数合計			97	36	23	19	19	
修得単位数合計			必修26単位を含む62単位以上					



ストックホルム国際青年科学セミナー
(写真提供・国際科学技術財団)



マイクロソフト主催Imagine Cup2015世界大会
(画像提供・マイクロソフト(株))



国際会議NANO SciTech2017



専攻科棟(高松キャンパス)



専攻科棟(詫間キャンパス)

国際交流活動

◇国際学術交流

学術交流協定の締結

2005 年 8 月	東洋工業専門大学(韓国)(現 東洋未来大学校)	Dongyang Mirae University(DMU)
2009 年 6 月	ダナン工科大学(ベトナム)	Danang University of Technology (DUT)
2009 年 12 月	正修科技大学(台湾)	Cheng Shiu University(CSU)
2010 年 6 月	ソウル大学校工科大学(韓国)	College of Engineering, Seoul National University(SNU)
2010 年 8 月	マラ工科大学(マレーシア)	Universiti Teknologi MARA(UiTM)
2012 年 6 月	クライストチャーチポリテク大学(ニュージーランド)	Christchurch Polytechnic Institute of Technology (CPIT)
2013 年 7 月	カーン大学(フランス)	University of Caen Basse-Normandie
2014 年 8 月	ラジャマンガラ工科大学タンヤブリ校(タイ)	Rajamangala University of Technology Thanyaburi (RMUTT)
2015 年 3 月	泰日工業大学(タイ)	Thai-Nichi Institute of Technology (TNI)
2015 年 12 月	トゥール大学(フランス)	Universite Francois-Rabelais Tours (UFRT)
2018 年 7 月	マレーシア科学大学(マレーシア)	Universiti Sains Malaysia (USM)
2018 年 12 月	大連東軟信息学院(中国)	Dalian Neusoft University of Information (DNUi)
2021 年 3 月	国立成功大学(台湾)	National Cheng Kung University (NCKU)



USMとの学術交流協定の調印



DNUiとの学術交流協定の調印



オンラインでのNCKUとの学術交流協定の調印

◇学生の国際交流活動

- ・海外インターシップへの派遣（派遣国と学生数）
 - 2009 年度：タイ (2)、2010 年度：フィリピン (1)、2011 年度：中国 (1)、インドネシア (1)、フィリピン (1)
 - 2012 年度：香港 (1)、シンガポール (1)、2013 年度：米国 (1)、中国 (1)、台湾 (1)、
 - 2015 年度：タイ(1)、香港(1)、ベトナム(1)、2017年度：マレーシア(1)、2018年度：タイ(4)、2019年度：タイ(1)
- ・英語による専門授業（協定校からの講師招聘および遠隔授業）
 - 2017 年 12 月：高松キャンパス(ラジャマンガラ工科大学タンヤブリ校)、2018、2019 年 1 月：詫間キャンパス(マラ工科大学)
 - 2020 年 1 月：詫間キャンパスへ英語授業の遠隔配信(マレーシア科学大学)
 - 2020 年 11 月～2021 年 1 月：SDGs Webinar 2020の代替オンラインセミナー

◇香川高専・他高専・高専機構が主催・共催した学生の国際交流活動(2017～2020年度)

期 間	派遣・受入	学生数	派遣先・受入国	プ ロ グ ラ ム
2017年,3/12-12/30	派 遣	1	カナダ	2016年度後期(第5期)官民協働海外留学支援制度～トビタテ!留学JAPAN日本代表プログラム～地域人材コース
2017年,8/19-27	派 遣	1	フィンランド	持続可能な社会構築への貢献のための科学技術に関する国際シンポジウム(ISTS2017)
2017年,8/19-9/17	派 遣	12	ニュージーランド	2017年度 ニュージーランドAra海外語学研修
2017年,8/23-9/1	派 遣	1	タイ	TNIサマープログラム2017
2017年,8/28-9/9	派 遣	1	中国	海外語学研修
2017年,9/17-24	派 遣	1	シンガポール	国際工学教育研究集会(ISATE2017)
2018年,3/4-14	派 遣	5	オーストラリア	2017年度 オーストラリア海外研修旅行
2018年,3/10-25	派 遣	1	シンガポール	高専生のための英語キャンプ
2018年,8/18-9/16	派 遣	7	ニュージーランド	2018年度 ニュージーランドAra海外語学研修
2018年,9/2-13	派 遣	10	タイ	2018年度 アクティビティ研修 in タイ
2018年,9/3-16	派 遣	1	中国	2018年度 大連東軟信息学院 夏季短期留学プログラム
2018年,9/18-21	派 遣	1	中国(香港)	ISATE2018
2018年,10/7-13	派 遣	1	タイ	第8回「持続可能な社会構築への貢献のための科学技術に関する国際セミナー」(ISTS 2018)
2019年,3/9-30	派 遣	1	オーストラリア	オーストラリア・クイーンズランド工科大学研修(QUT研修)
2019年,8/9-8/17	派 遣	13	タイ	2019年度 アクティビティ研修 in タイ
2019年,8/17-9/16	派 遣	1	カナダ	高専生のためのテクニカルイングリッシュセミナー in バンクーバー
2019年,8/25-9/23	派 遣	8	ニュージーランド	2019年度 ニュージーランド Ara海外語学研修
2019年,8/29-9/26	派 遣	6	台湾	第3回 日台国際カンファレンス
2019年,9/9-9/20	派 遣	11	マレーシア	2019年度 マラ工科大学 (UiTM) での海外英語研修と異文化体験
2019年,9/9-9/22	派 遣	1	中国	2019年度 大連東軟信息学院 夏季短期留学プログラム
2020年,8/17-8/28	派 遣	1	中国	2020年度 大連東軟信息学院 夏季短期留学プログラム (オンライン形式)

◇香川高専グローバルエンジニア研修プログラム（GETプログラム）

【概要】 本校と学術交流協定を締結する海外の大学（以下、協定校）との間で研究課題を共有できる分野において、本校学生を派遣し協定校の教育研究環境で自らの専門分野に取り組む。また協定校から学生を受入れ、共に研究課題に取り組む。これらによって、英語を用いたコミュニケーション能力を向上させると共に、海外異文化の理解や自国日本の理解を深めることを目標とする。

これまでの実績
(2016年度以降)

派遣型

派遣先	実施時期	派遣人数
マラエ科大学	2016年, 2/26 - 3/15	5
トゥール大学	2016年, 9/29 - 12/19	1
マラエ科大学	2017年, 2/23 - 3/15	3
ラジャマンガラエ科大学タンヤプリ校	2017年, 3/1 - 3/10	7
ラジャマンガラエ科大学タンヤプリ校	2017年, 9/3 - 9/27	1
マラエ科大学	2018年, 2/25 - 3/13	2
ラジャマンガラエ科大学タンヤプリ校	2018年, 3/8 - 3/21	5
トゥール大学	2018年, 10/2 - 12/14	3
ラジャマンガラエ科大学タンヤプリ校	2019年, 9/3 - 9/16	2
マラエ科大学	2020年, 3/2 - 3/11	2
トゥール大学	2020年, 3/2 - 3/11	2
計		33

受入型

受入元	実施時期	受入人数
トゥール大学	2016年, 4/11 - 6/29	1
マラエ科大学	2017年, 3/14 - 3/31	15
トゥール大学	2017年, 4/13 - 6/30	4
ラジャマンガラエ科大学タンヤプリ校	2017年, 6/6 - 7/31	2
ラジャマンガラエ科大学タンヤプリ校	2017年, 6/13 - 9/12	1
トゥール大学	2018年, 4/12 - 6/30	3
ラジャマンガラエ科大学タンヤプリ校	2018年, 5/1 - 6/30	1
ラジャマンガラエ科大学タンヤプリ校	2018年, 5/1 - 7/31	5
トゥール大学	2019年, 4/12 - 6/28	5
ラジャマンガラエ科大学タンヤプリ校	2019年, 5/7 - 7/5	5
ラジャマンガラエ科大学タンヤプリ校	2019年, 5/7 - 8/5	2
ラジャマンガラエ科大学タンヤプリ校	2019年, 6/10 - 8/5	2
ラジャマンガラエ科大学タンヤプリ校	2019年, 11/13 - 1/13	2
計		48

◇国際シンポジウム等の開催（2015～2020年度）

- ・「日台国際カンファレンス」主催：台湾・聯合大学、共催：香川高専ほか（2019年9月）
- ・「環境地盤工学に関する国際シンポジウムGEE」主催・共催：香川高専ほか2015年5月、2016年5月、2018年5月
- ・「ナノテクノロジーに関する国際会議 NanoSciTech&IC-NET」共催：マラエ科大学・名古屋工業大学・香川高専 2014年2月、2015年2月、2017年2月、2018年2月、2019年3月
- ・「電子工学及びナノテクノロジーに関する国際セミナー International Seminar on Electronics Engineering and NANO Technology」共催：マラエ科大学・香川高専 2017年3月
- ・「土木工学と社会資本整備に関する国際会議（InCIEC2015）」：マラエ科大学 2015年9月
- ・「エコなエネルギー、材料科学および工学に関するシンポジウム EMSES」共催：RMUTT、京都大学、京都工芸繊維大学、香川高専 2016年12月、2018年4月
- ・「International Conference on Creativity, Innovation, and Invention in Digital Technology(CIIDT)」本校共催 2018年12月



台湾國立大甲高級工業職業學校 教育旅行団



NANO SciTech & IC-NET 2015 (マラエ科大学)

◇外国人留学生 国・年度毎の留学生入学者数

出身国 編入学年度	ドイツ	ブラジル	カンボジア	中国	コロンビア	インド	インドネシア	ケニア	韓国	ラオス	マレーシア	モンゴル	フィリピン	スリランカ	タイ	ウガンダ	ベトナム	パキスタン	マダガスカル	計
令和3年度(2021年度)									(1)	1	1									3
令和2年度(2020年度)												1								1
平成31年度(2019年度)											2	1			(1)				1	5
平成30年度(2018年度)												3								3
平成29年度(2017年度)											2	2			1					5
平成28年度(2016年度)											4	1			1					6
平成27年度(2015年度)									(2)	1		1						1		5
平成26年度(2014年度)	7	1	4	5	1	1	13	1	2	8	72	6	9	7	10	2	11			160
昭和60年度(1985年度)																				

()は専攻科入学者数

留学生関係行事

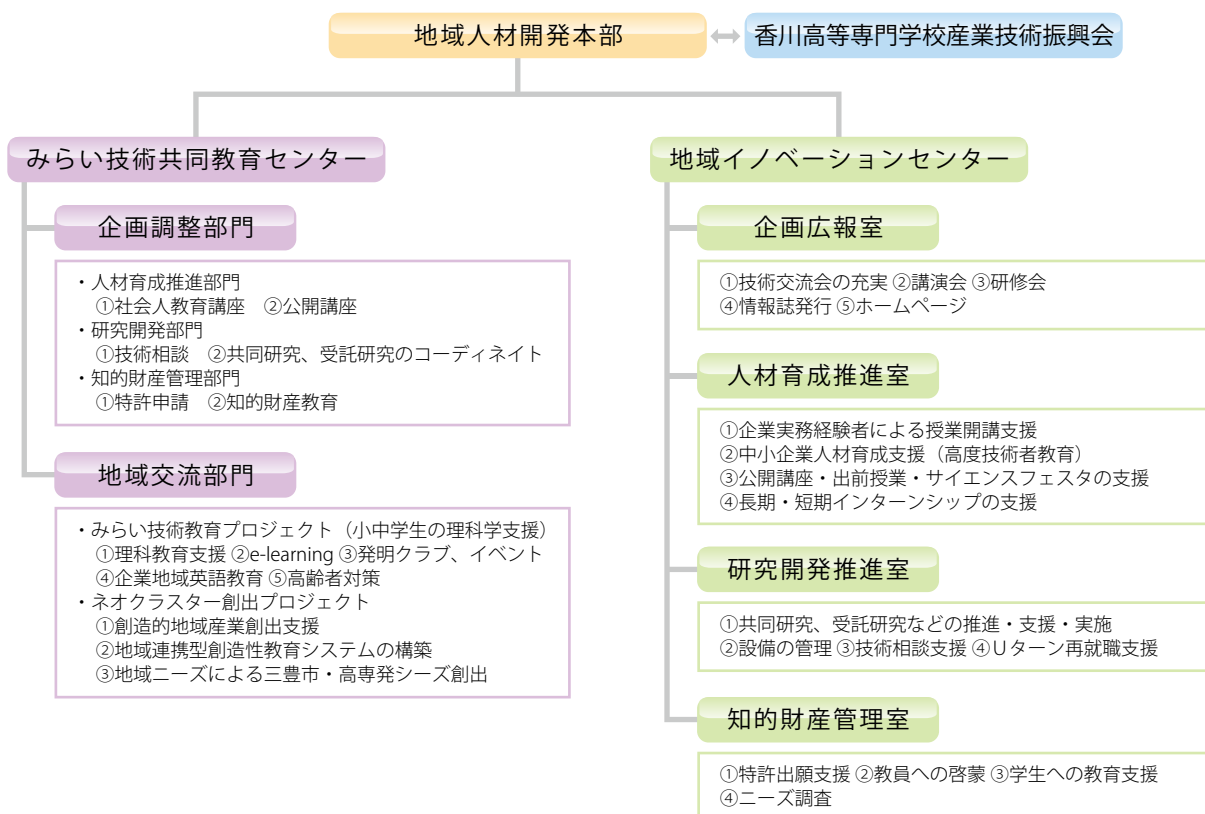
- ① 四国地区高等専門学校外国人留学生交流活動
- ② 留学生見学旅行（両キャンパス合同）
- ③ 「留学生交流会」を毎年開催
- ④ 留学生の地域活動
（国際交流団体等の主催する各種イベントへの参加）



留学生見学旅行（高松・詫間キャンパス合同）

地域人材開発本部

◇地域人材開発本部組織図



◇スタッフ

地域人材開発本部	本部長	田中 正夫（校長）
	副本部長	向谷 光彦（建設環境工学科 教授）
みらい技術共同教育センター	センター長	三崎 幸典（電子システム工学科 教授）
	副センター長	金澤 啓三（情報工学科 教授）
	企画調整部門長	三河 通男（専任 電子システム工学科兼任 准教授）
	地域交流部門長	岩本 直也（電子システム工学科 講師）
地域イノベーションセンター	センター長	向谷 光彦（建設環境工学科 教授）
	副センター長	嶋崎 真一（機械電子工学科 准教授）
	企画広報室長	立川 直樹（一般教育科 講師）
	人材育成推進室長	高橋 洋一（機械工学科 准教授）
	研究開発推進室長	吉岡 崇（電気情報工学科 助教）
	知的財産管理室長	今岡 芳子（建築環境工学科 講師）

◇みらい技術共同教育センター（詫間キャンパス）

推進 プロジェクト

みらい技術共同教育センターでは、平成30年度三豊市・東京大学大学院工学系研究科松尾研究室・香川高等専門学校との連携協力に関する合意書締結により学生へのAI（ディープラーニング：DL）教育を開始し、平成31年4月に開設された「一般社団法人みとよAI社会推進機構：MAiZM」、「東京大学大学院松尾研究室みとよサテライト」に協力し高専学生へのAI（DL）教育とAI（DL）応用を積極的に行っています。（AI（DL）教育・応用については令和2年度から香川高等専門学校AI社会実装教育研究本部、詫間キャンパスAI社会実装教育研究センター、高松キャンパスAI社会実装教育研究センターと連携して推進します。）



「東京大学大学院松尾研究室みとよサテライト」オープン

施設概要

多目的実験室、多目的ホール、みらい技術共同教育センター教育・演習室、機能性食品等研究・開発実験室
IoT・ICT共同利用実験室Ⅰ、Ⅱ、半導体デバイス先端融合ラボ（デバイス製作ルーム、分析ルーム）



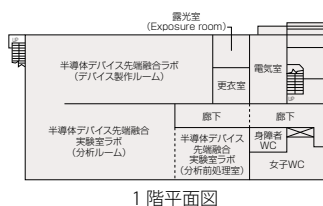
半導体デバイス先端融合実験室ラボ（分析ルーム）



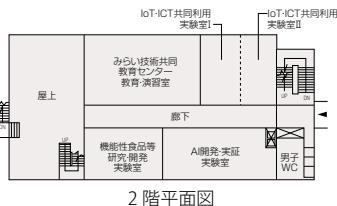
多目的実験室



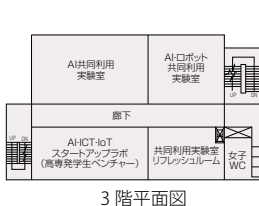
みらい技術共同教育センター教育・演習室



1 階平面図



2 階平面図



3 階平面図



4 階平面図

半導体デバイス先端融合ラボでは、各種高機能性電子材料薄膜の作製・微細加工およびそれらの高分解能分析評価を行うための装置を備え、教員及び学生の実験・研究に利用されています。電子材料薄膜の作製・微細加工用装置としては高周波マグネトロンスパッタリング装置、プラズマ CVD 装置、真空蒸着装置、目合わせ露光装置、電子線描画装置などがあり、高分解能分析評価装置としてはエネルギー分散形 X 線分光器（EDS）付フィールドエミッション走査電子顕微鏡（FE-SEM）、残留農薬分析装置、薄膜材料結晶解析 X 線回折システム、プラズマ発光分析装置、蛍光 X 線分析装置、表面形状測定装置があり、学外からも利用が可能です。



電子線描画装置



EDS 付フィールドエミッション走査電子顕微鏡



薄膜材料結晶解析 X 線回折システム



表面形状測定装置



残留農薬分析装置



蛍光 X 線分析装置

◇地域イノベーションセンター（高松キャンパス）

業務内容

地域イノベーションセンターは地域における知の拠点としての役割を担うべく、走査型プローブ顕微鏡をはじめとする最新の表面分析機器や材料分析機器、学内で使える有限要素法解析装置などを整備し、産学共同研究・受託研究の環境を整備しています。また、プロジェクト室やクリーンルームを設けて研究の加速的な推進に供しています。さらに、香川高専産業技術振興会や地域企業との交流のためにイブニングセミナーなどの各種行事を開催しています。

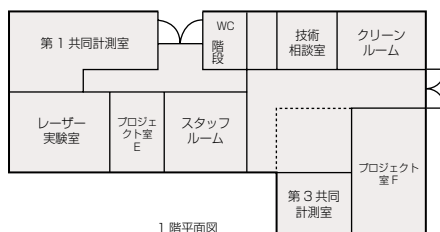
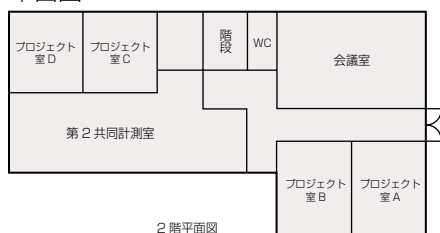


講習会

設備

多目的X線回折装置、波長分散型蛍光X線分析装置、原子吸光分光光度計、卓上顕微鏡、エリプソメータ用裏面反射除去装置、走査型プローブ顕微鏡、電界放出型走査電子顕微鏡、汎用有限要素法解析システム、サーモグラフィカメラ、卓上型スパッタコーダ、ドラフトチャンバー、デジタルマイクロスコブ

平面図



デジタルマイクロスコブ



第2共同計測室



電界放出型走査電子顕微鏡



汎用有限要素法解析システム

◇香川高専教員の研究分野と主なキーワード

研究分野	キーワード
産業・工業分野	固体力学、材料強度・疲労強度、流体力学、機械設計・信頼性工学、エネルギー工学
素材加工分野	材料学・材料工学・機械材料学、材料加工学、溶接工学
振動・制御分野	機械力学・振動工学、機械制御、メカトロニクス・ロボット
電気材料分野	誘電体、半導体、磁性体、電磁界、薄膜
回路設計分野	電子回路、論理回路、高周波回路、回路設計
計測・分析分野	計測、音響・騒音、信号処理・スペクトル解析、AI
画像・認識分野	画像処理・パターン認識、医用、AI
情報・通信分野	ソフトウェア、ネットワーク、情報コンテンツ、無線通信、教育工学、AI
建設・構造分野	構造、地盤、橋梁、コンクリート、水理、交通・計画、都市計画、計算力学、海岸、調査、地理情報システム
環境・防災分野	環境保全、バイオ技術、防災・安全システム、BCP（事業継続計画）、ため池
地域・文化分野	語学、物理学、化学、数学、人文科学・社会科学、体育

◇産学官連携活動

[香川高等専門学校産業技術振興会]

設 立 平成21年8月28日

目 的 地域産業界と香川高専との連携を深め、香川高専が有する人・知・物的資源を活用し、技術交流や情報交換等各種事業を通し、地域産業の発展を図るとともに、香川高専の教育研究の振興に寄与しています。

事業内容 産学連携による技術開発の推進、地域産業の発展。技術に関する講演会、講習会、研修会の開催及び情報誌の発行。技術分野での技術相談、情報交換。企業社員の研修等育成支援事業。共同研究等推進支援事業。インターンシップ。仕事研究セミナー。共同教育。香川高専の教育・研究の充実、振興。その他。



定期総会



イブニングセミナー



現地説明会

[四国地区高専地域イノベーションセンター]

目 的 阿南工業高等専門学校、香川高等専門学校、新居浜工業高等専門学校、弓削商船高等専門学校及び高知工業高等専門学校は、四国地区高専の持つポテンシャルと地域の特性を生かし、地域の活性化と産業の振興に寄与する産学官連携活動を組織的系統的に展開しています。

業務内容

1. イノベーション創出部門
四国地区高専が連携して行う技術シーズとニーズのマッチングに関すること。技術相談、共同研究等の産学官連携活動に関すること。
2. 知的財産部門
四国地区高専が連携して行う知的財産管理及び知的財産教育に関すること。
3. 四国地区高専連携部門
前部門の業務以外で、センターの目的を達成するために必要な業務に関すること。

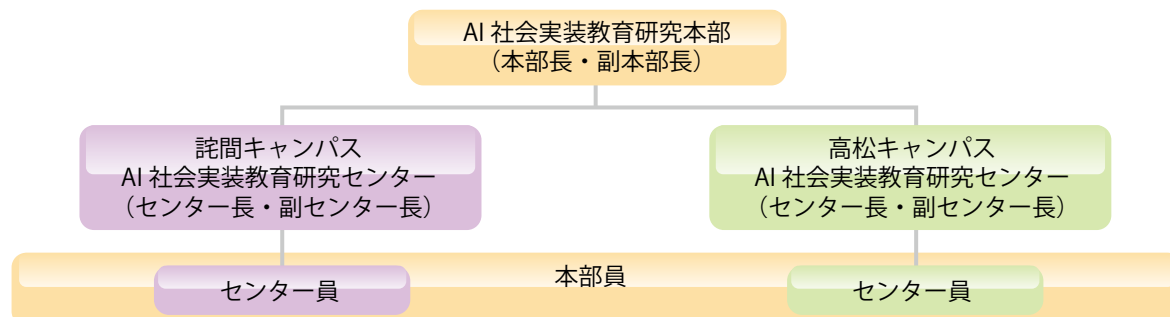
◇地域社会連携活動

[公開講座・セミナー]

2020. 8.24~8.28	AI(人工知能)サマースクール
2020. 9.14~15	有限要素法解析入門
2020. 9.15	インフラメンテナンス・オンライン講習会「①土の強さと水の透しやすさの決め方」コース
2020.10.10~11	ミニソーラーカーを作ってみよう!
2020.11.19	インフラメンテナンス講習会『ため池堤体の点検に適用できる原位置透水試験法』
2020.11.28	絵が浮き出る釣りゲームを作ろう(オンライン)
2020.11.28	ダイヤル錠を作ろう(オンライン)
2020.12.12	やってみよう!硬式野球
2021. 1. 7	インフラメンテナンス・オンライン講習会「②原位置の地盤の強さ・支持力の判定」コース
2021. 2.27	脳波でロボットを動かすオンラインセミナー
2021. 3.20	模擬人工衛星(缶サット)の制作・打ち上げ講座

AI社会実装教育研究本部

◇AI社会実装教育研究本部組織図



香川高等専門学校（以下香川高専）は東京大学松尾研究室・三豊市と平成30年8月に「連携協力に関する合意書」を締結し、AI：人工知能（DL：ディープラーニング（深層学習））の教育、社会実装を積極的に進めてきました。

令和2年4月1日に東京大学松尾研究室や香川高専の教育研究資源やその成果を用いて、全国の高専にAI及びその基盤となるデータサイエンス等の教育プログラムを積極的に配信・実施し、創造的なアイデア及びそのアイデアを社会に実装するための行動力を有する人材を育成することで、香川高専だけでなく全国の高専にAIの基礎教育及び応用研究を行う学生、研究者を育成し、地域企業等への共同研究による社会実装を推進するために香川高専AI社会実装教育研究本部を設置しました。



三豊市・東京大学松尾研究室・香川高等専門学校
連携協力に関する合意書締結(平成30年8月三豊市役所)

香川高専AI社会実装教育研究本部は主として次のことを行います。

- ①学生のAI人材育成
- ②社会実装教育を中心とする地域と連携した教育
- ③AI人材育成に係る出前講座、遠隔講義に関すること
- ④一般社団法人みとよAI社会推進機構(MAiZM)との連携事業

香川高専AI社会実装教育研究本部下には、「詫間キャンパスAI社会実装教育研究センター」「高松キャンパスAI社会実装教育研究センター」を設置し、各キャンパスのAI教育・社会実装を推進します。

一般社団法人みとよ AI 社会推進機構 (MAiZM) <https://www.maizm.or.jp/>

三豊市・東京大学松尾教授・香川高専が協力して平成31年4月1日に開設しました。
高専学生へのAI(DL)教育とAI(DL)応用を積極的に推進しています。

◇スタッフ

AI社会実装教育研究本部	本部長	三崎 幸典（電子システム工学科 教授）
	副本部長	徳永 秀和（機械電子工学科 教授）
詫間キャンパス AI社会実装教育研究センター	センター長	三崎 幸典（電子システム工学科 教授）
	副センター長	金澤 啓三（情報工学科 教授）
高松キャンパス AI社会実装教育研究センター	センター長	徳永 秀和（機械電子工学科 教授）
	副センター長	村上 幸一（電気情報工学科 准教授）

社会基盤メンテナンス教育センター

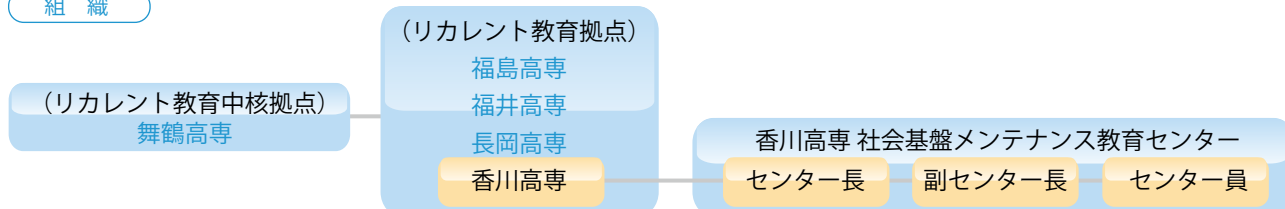
社会基盤メンテナンス教育センター（Infrastructure Maintenance Educational Center、略称 iMec）は、本校の教育研究資源やその成果等を用いて、社会基盤（インフラ）の維持管理に関するリカレント教育を推進し、人材の育成等を行うことを目的として、令和2年4月1日に設置されました。



道路や橋などに代表される社会基盤構造物の老朽化が社会的な問題となっており、それらの維持管理を行う技術者を育成することが求められています。本センターでは、高専生、地方自治体職員、民間技術者等に対して、メンテナンスに関する e-learning や座学、損傷調査・非破壊検査の実技講習、橋梁の実物劣化部材を用いた体験型学習を組み合わせ実践的な教育を実施し、橋梁点検技術者（国土交通省認定）等の資格認定を行います。

令和元年度より文部科学省 持続的な産学共同人材育成システム構築事業「KOSEN 型産学共同インフラメンテナンス人材育成システムの構築」に採択され、この分野で先行する舞鶴工業高等専門学校を中核として、本校のほかに福島、長岡、福井工業高等専門学校と連携して、各地域のリカレント教育拠点の構築を図ります。

組 織



設 備

当センターには、全国で更新に伴い撤去された橋梁の部材を実物劣化モデルとして、実習フィールドに収蔵・公開しています。



実習フィールド全景



鉄筋コンクリート床版



鉄筋コンクリート桁



鋼リベット桁



鋼トラス橋・支承



電磁波レーダーによる非破壊検査

◇スタッフ

センター長	林 和彦（建設環境工学科 准教授）
副センター長	入江 正樹（社会基盤メンテナンス教育センター 専任教員）
センター員	長谷川 雄基（建設環境工学科 助教）、松本 将之（建設環境工学科 助教）

研究活動等

◇科学研究費助成事業

人が持つ技能の特徴化ならびにスポーツ指導への活用に関する研究
機械翻訳と意味順英語学習法を融合させた英文ライティングプロセスの研究
中小技術職現場における女性の雇用就労の構造研究—女性技術者就業マッチング設計—
パラジウムエノラートの触媒的極性転換反応の機構解明と精密合成への展開
英語教育を土台にした異文化トレーニング方法に関する実証的基礎研究
根尖性歯周炎治療のための500kHz電流照射に関する最適な通電条件の検討
水素ラジカルによるポリマー材料の分解・除去における酸素微量添加効果の解明
希少淡水魚アユモドキの水田水域への産卵遡上に適する魚道構造の研究
ソフトウェア開発データ特有の欠損メカニズム特定に関する研究
会話ロボットによる相手の良さを引き出すインタビュー対話の研究
一人で操作できる文楽ロボットの開発
生物・凝集処理を同時に行う染料廃水の省エネ・ゼロエミッション型廃水処理装置の開発
密集配置をした小形垂直軸風車のウインドファームに関する数値流体力学解析と風洞実験
リーマン面の正則写像の研究—把手条件の拡張と応用
性質の異なるビッグデータを結び付けた地方公共交通の利用実態の解明手法の開発
p型Geのpiezo抵抗効果
Web授業受講者を評価するアフェクティブモニタシステムの開発
十八・十九世紀を中心とした怪異文芸と学問・思想・宗教との総合的研究
非鉛ペロブスカイト太陽電池の電子輸送特性におけるハロゲン化合物の添加効果解明
付け爪を応用した皮膚に触れないウェアラブル心拍センサ：生活環境下での実証実験
患者のコミュニケーション補助を円滑にする顔の映像や音声を用いたBMIの開発
宇宙論的加速器物理学に基づくインフレーション宇宙を構成する素粒子の探索
宇宙マイクロ波背景放射によるダークマター探索
ディープラーニングを活用した打音検査ハンマーの振動判別技術の開発と効果の検証
独立性に基づく音源分離の数値モデル一般化と深層学習の融合
軟性内視鏡手術を支援する病変硬さや把持状態を無線で取得する構造色式センサの開発
放物型フローを応用した複素構造の存在問題に対する新たなアプローチ
金属被覆プラスチックリサイクルへの高電圧・パルスパワー技術の応用に関する基礎研究
制震装置を活用した付加減衰に基づく送電鉄塔の耐震性向上に関する研究
豪雨および地震に対する老朽化した土構造物の高耐久化補強技術の開発
浅海域の貧栄養化解消を目的とした海底耕耘の定量的効果検証
CIMと交通事故特性からみた子どものモビリティのあり方の検討
作用素環のモデル理論による解析
高生産性と安全性を両立したフレキシブル生産システムのための人協働ロボットの開発
けい酸塩系表面含浸材の汎用的利用に向けた実験的検討
表現のモジュライとその周辺（4）
オーストラリアにおける「ポートピープル」の脱/安全保障化をめぐるポリティクス
戦時言論統制下における小説表現の創出についての研究—太宰治を中心に—
準備した失敗モデルの観察から始まるエラー修正型学習の公開講座構築について
サーモクロミック塗料を用いた低学年向けSTEAM教材の開発
高専スペースアカデミアの活動を通じてのフィードバック型PBL実験の構築
総件数41件 総金額45,309,700円

◇受託研究

付け爪型ウェアラブルセンサ：多点長時間計測を実現する装着感のないウェアラブルセンサの開発
脈爪変位による超長寿命・無拘束バイタルセンシングのための基盤研究
脈爪変位による超長寿命・無拘束バイタルセンシング
三豊市・香川高等専門学校連携事業
三豊市・香川高等専門学校連携事業（有害鳥獣対策）
サケ・カラフトマスの移動環境構築を目的とした可搬魚道の設置試験
インテリジェント箱罟の研究開発
機械学習を用いたキャベツの収穫日と収穫量に関する予測データの作成
総件数8件 総金額 8,829,400円

◇共同研究

高機能鉛蓄電池の開発
フッ素処理技術に関する研究
堆積岩の特性と地層内バイオメタン生産技術開発に関する研究
被覆配線など廃プラスチックの処理技術の開発
楽器収録中に存在する被り音抑制に関する研究
無線式モニタリングシステムに関する研究
信号間の独立性を指標とし、独立成分分析による信号分離の可否を判定する技術に関する研究
大気圧プラズマによる微細構造の形成と撥油・撥水効果の検討
布団内快適環境を測定する装置の開発
ディープラーニングを用いたカラス認識システムの開発
アナログ計器のAIによる数値データ化
NLB（New Lead Battery）の開発
河川堤防やため池堤体の豪雨時浸透性能を評価する試験システムの開発
環境に配慮した道路排水プレキャストコンクリート製品開発・改良に関する基礎的研究
アイカメラと深層学習による画像認識技術を用いた熟練宮農者の暗黙知の表出
運動状態における疲労の検出
高感度呼吸センサを用いた高齢者・乳幼児見守りシステム開発—新型コロナウイルス感染症（COVID-19）宿泊療養・自宅療養見守りへの応用—
可動部用ケーブルの導体・シールド寿命予測方法の研究
AIによる課題解決及び実装に関する研究
脈爪変位による超長寿命・無拘束バイタルセンシングのための基盤研究
低コストな駆動用モータを有する電動運搬車に適したパワーアシスト制御の開発
他8件 総件数29件 総金額12,107,000円

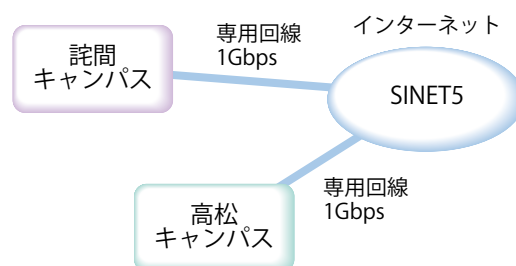
◇その他競争的資金・助成金

農業水路に着脱可能な可搬式魚道の開発と水田生態系保全における活用方法の確立
自動復元設計技術と深層学習を融合させた橋梁維持管理システムの開発
「知」の集積と活用場による研究開発モデル事業
令和2年度香川県若者県内定着促進支援事業
令和2年度香川県感染症に強い大学づくり推進事業
耐震性と耐浸食性を有する高靱性人工地盤材料の開発
学生目線で作り上げる自然災害避難支援マップと協働意識の醸成
緑化基盤材としての機能を有する繊維補強ポーラスコンクリートの開発
最寄り鉄道駅までのアクセス性を考慮した鉄道利用実態に関する基礎的研究
ため池堤防に近接した戸建て住宅のAI防災対策の可視化
低演算料と高負荷トルク耐量を両立したIPMSMの位置センサレス制御に対する研究助成
総件数11件 総金額14,414,000円

情報処理施設

◇情報インフラストラクチャ

学外には、各キャンパスから学術情報ネットワーク (SINET) と 1Gbps の専用回線による接続を行っています。



ネットワークと学外接続

◇情報基盤センター

・高松キャンパス

ハードディスクイメージ自動復帰方式のクライアントコンピュータが、第一演習室（47 台）、第二演習室（50 台）、マルチメディア教室（54 台）と小演習室（18 台）に設置されており、コンピュータリテラシー教育、プログラミング教育および工学系アプリケーションソフトを使った演習授業などに使われています。



高松キャンパス 第一演習室



高松キャンパス 第二演習室



高松キャンパス マルチメディア教室

・詫間キャンパス

ハードディスクイメージ自動復帰方式のクライアントコンピュータが、第2演習室（53 台）、マルチメディア・ラーニング・ラボ（48 台）、高度情報教育ラボ（50 台）、サイバー・ラボ（49 台）に設置されており、コンピュータ・リテラシー及び ICT 教育に幅広く利用されています。また、全学生が学内のどこからでも電子メールやインターネットの利用ができる環境となっています。



詫間キャンパス 第2演習室



詫間キャンパス サイバー・ラボ



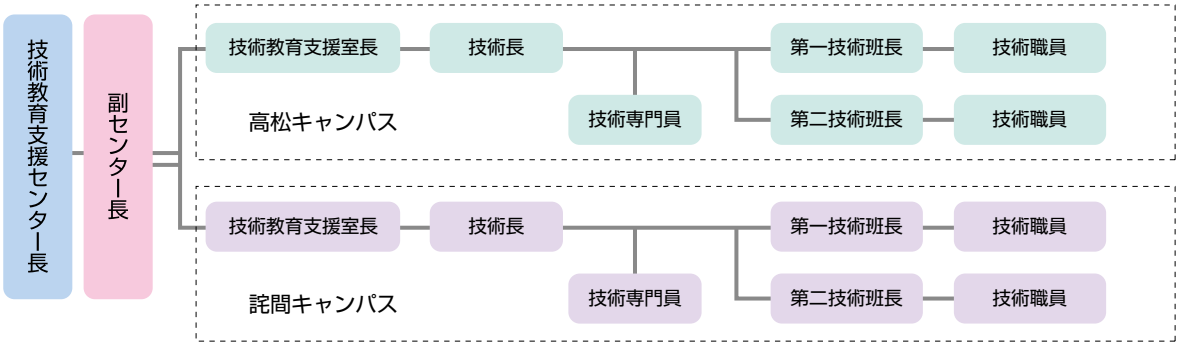
詫間キャンパス 高度情報教育ラボ

技術教育支援センター

技術教育支援センターは、技術・教育に関する専門的支援業務を組織的かつ効果的に処理するとともに、地域への技術指導及び出前授業等を通して社会貢献に資することを目的としています。主な業務は次の通りです。

- ・ 学生の実験、実習、卒業研究、行事の技術指導及び安全確保
- ・ 情報処理、情報ネットワークの支援
- ・ 教育、研究及び社会貢献に関する技術支援
- ・ 技術資料の作成、保管及び提供、機器、薬品等の管理並びに災害防止
- ・ 技術の継承、技術向上のための技術研修、技術発表会及び技術講演会等の企画、実施等
- ・ 地域連携事業及び各種イベントへの技術協力

技術教育支援センターは、高松キャンパス技術教育支援室及び詫間キャンパス技術教育支援室で構成されています。



◇高松キャンパス技術教育支援室

機械系に関する実験、実習、卒業研究の技術教育支援を主とする第一技術班と、電気・情報・建設系に関する実験、実習、卒業研究の技術教育支援を主とする第二技術班で構成されています。



建設環境工学科



公開講座

◇詫間キャンパス技術教育支援室

電子・通信系に関する実験、実習、卒業研究の技術教育支援を主とする第一技術班と、情報系に関する実験、実習、卒業研究の技術教育支援を主とする第二技術班で構成されています。



デジタル回路製作実験



公開講座

◇スタッフ

	室 長	技術長	技術専門員	第一技術班		第二技術班
高松キャンパス 技術教育支援室	澤田 功	寺嶋 昇	向井 公人	班長	向井公人（兼務）	吉成知己（技術専門職員）
				技術専門職員	丸笹憲志、大賀祐介	小野真二、岡崎芳行、向井しのぶ、中島香織
				技術職員		田辺絵理奈、中山一平
詫間キャンパス 技術教育支援室	澤田 士朗	村上 浩	西川 和孝 河口 尚宏 栈敷 剛	班長	河口尚宏（兼務）	西川和孝（兼務）
				技術専門職員	福田清人	新宅宏志
				技術職員	洲賀崎光沙	垂水良浩

学生相談等施設

◇学生相談室（両キャンパス）

学生相談室では、学校生活においての悩みや日常生活上の個人的な悩みを抱える学生、又は不適応状態に陥っている学生に対して、必要に応じて指導助言あるいはカウンセリング等を行って、学生一人ひとりが有意義で充実した学生生活を送れるように支援しています。

臨床心理士及び公認心理師の資格を持つカウンセラーの先生が定期的に来校して、学生相談室で相談を受け付けています。また、校内では教職員の中から選ばれた学生相談室員が、常時相談を受け付けています。



高松キャンパス 学生相談室



詫間キャンパス 学生相談室

◇キャリアサポートセンター（両キャンパス）

キャリアサポートセンターでは、学生への就職・進学支援やインターンシップ等のキャリア支援を主目的として、各種企画の実施と情報収集及び提供を行っています。また、キャリアサポートセンター室と資料室には、求人票、会社案内資料や大学案内等の進路に関する資料をそろえています。

（Ⅰ）就職・進学支援

- （１）就職のための合同企業説明会の実施
- （２）履歴書の書き方講座の開講
- （３）面接実技研修の実施
- （４）SPI対策講座の開講
- （５）進路についての懇談会の実施

（Ⅱ）キャリア支援

- （１）インターンシップ説明会の実施
- （２）香川県技術士会による出前授業の実施
- （３）県内企業人による技術出前講座の実施
- （４）OB等による出前講座や企業説明会の開催



面接実技風景



合同企業説明会



技術士会による出前授業風景



OBによる出前授業風景

図書館

両キャンパスにはそれぞれ図書館が設置され、知の源であり、また、情報発信の場でもある図書館の役割を果たすために整備を図っています。平日は 20 時までですが、平日だけでなく、土曜日にも開館しています。学生・教職員以外の一般の方にも開放し、貸出サービスも実施しています。

高松キャンパス図書館

■開館時間

月～金 8:30～20:00 土 10:00～16:30
※長期休業中 月～金 8:30～17:00

■図書館利用状況

令和2年度	貸出冊数		計	学生1人当り 貸出冊数
	学生	教職員・学外		
	2,852	1,308	4,160	3.1

■VHS・DVD・BD：1,229 タイトル

■CD：2,389 タイトル

■令和2年度購入：DVD 等 5 タイトル
CD 36 タイトル



閲覧室



視聴覚コーナー

■令和2年度末現在分類別蔵書冊数

分類	洋書	和書	計	内閲覧室		
				洋書	和書	計
0 (総記)	211	6,147	6,358	58	2,504	2,562
1 (哲学)	272	4,654	4,926	2	1,984	1,986
2 (歴史)	265	6,898	7,163	13	3,273	3,286
3 (社会科学)	538	9,284	9,822	11	4,339	4,350
4 (自然科学)	2,915	16,375	19,290	44	8,109	8,153
5 (技術工学)	2,498	25,195	27,693	156	12,843	12,999
6 (産業)	20	1,102	1,122	3	596	599
7 (芸術)	188	5,130	5,318	30	3,202	3,232
8 (言語)	1,853	3,926	5,779	778	2,181	2,959
9 (文学)	1,063	16,748	17,811	39	11,434	11,473
計	9,823	95,459	105,282	1,134	50,465	51,599

詫間キャンパス図書館

■開館時間

月～金 8:30～20:00 土 10:00～16:30
※長期休業中 月～金 8:30～17:00

■図書館利用状況

令和2年度	貸出冊数		計	学生1人当り 貸出冊数
	学生	教職員・学外		
	3,490	507	3,997	5.4

■DVD・BD：835 タイトル

■CD：2,029 タイトル

■令和2年度購入：CD 14 タイトル



閲覧室



オープンラウンジ

■令和2年度末現在分類別蔵書冊数

分類	洋書	和書	計	内閲覧室		
				洋書	和書	計
0 (総記)	534	7,001	7,535	171	4,170	4,341
1 (哲学)	251	3,036	3,287	42	1,883	1,925
2 (歴史)	207	5,735	5,942	18	3,950	3,968
3 (社会科学)	178	6,490	6,668	10	4,024	4,034
4 (自然科学)	2,049	14,549	16,598	273	9,953	10,226
5 (技術工学)	1,794	16,680	18,474	271	7,386	7,657
6 (産業)	55	1,249	1,304	4	762	766
7 (芸術)	26	3,716	3,742	13	2,963	2,976
8 (言語)	3,369	4,117	7,486	2,945	2,636	5,581
9 (文学)	711	15,332	16,043	179	10,454	10,633
計	9,174	77,905	87,079	3,926	48,181	52,107

学生寮

◇清雲寮（高松キャンパス）

高松キャンパスには「清雲寮」という学生寮があり、南寮、北寮、西寮の3つの建物があります。南寮と北寮には男子学生が、西寮には女子学生がそれぞれ生活しています。

- 南寮（男子高学年用） 鉄筋コンクリート造4階建（一部3階）1人部屋(9㎡)：57室、1人部屋(13.5㎡)：2室、2人部屋(24㎡)：1室、2人部屋(13.5㎡)：1室
- 北寮（男子低学年用） 鉄筋コンクリート造3階建 1人部屋(11㎡)：29室、1人部屋(15㎡)：1室、2人部屋(15㎡)：24室
- 西寮（女子寮） 鉄筋コンクリート造3階建 1人部屋(10㎡)：23室、2人部屋(15㎡)：8室
- 共同室 学習室、日本語演習室、補食談話室、洗面洗濯室、浴室、食堂

■入寮者数

学 年	1年	2年	3年	4年	5年	専攻科	計
寮生数	38(7)	34(4)	32(4)〈1〉	27(0)〈1〉	21(5)〈2〉	0(0)	152(20)〈4〉

※() 内は女子学生、< >内は外国人留学生でそれぞれ内数

令和3年5月1日現在



清雲寮（南寮）



清雲寮（西寮・北寮）



新入寮生歓迎会

◇七宝寮及び紫雲寮（詫間キャンパス）

詫間キャンパスには、「七宝寮」と「紫雲寮」という学生寮があります。3つの建物で構成されていますが、七宝寮に男子学生が、紫雲寮に女子学生がそれぞれ生活しています。

- 七宝寮（男子寮） 2棟 鉄筋コンクリート造4階建 1人部屋(13.5㎡)：26室、2人部屋(27㎡)：9室
3棟 鉄筋コンクリート造5階建 1人部屋(9㎡)：46室、2人部屋(18㎡)：69室
- 紫雲寮（女子寮） 4棟 鉄筋コンクリート造5階建 1人部屋(9㎡)：12室、2人部屋(18㎡)：38室
- 共同室 自習室、パソコンルーム、談話室、補食談話室、洗面洗濯室、浴室、食堂

■入寮者数

学 年	1年	2年	3年	4年	5年	専攻科	計
寮生数	58(10)	48(8)	36(7)〈1〉	24(4)	33(3)〈2〉	3(0)〈1〉	202(32)〈4〉

※() 内は女子学生、< >内は外国人留学生でそれぞれ内数

令和3年5月1日現在



七宝寮・紫雲寮



寮生球技大会



寮室（カーテン仕切りあり）

福利厚生施設

◇^{じきよう}自彊会館（高松キャンパス）

本会館は、学生及び職員の福利厚生を図るとともに、学生の課外活動等の発展を助成することを目的として、昭和 57 年 4 月に建設されました。会館には、食堂（150 席）、コンビニ機能店、保健室、学生会室等があります。

売 店 平日 8：30～18：00

食 堂 平日 11：00～13：30



自彊会館(高松キャンパス)

◇福利センター（詫間キャンパス）

詫間キャンパスには、学生及び教職員の福利厚生を図るとともに、学生の課外活動等を助成し、学校生活を豊かにすることを目的とした福利センターがあります。この施設には研修室、オーディオルーム、売店、食堂、談話室及び学生会事務局があります。主な施設の利用時間は次のとおりです。

売 店 平日 10：30～19：00

食 堂 平日 10：30～13：30



福利センター(詫間キャンパス)

◇職員集会所（高松キャンパス）

高松キャンパスには、宿泊も可能な職員集会所があります。教職員の業務に必要な LAN の設備もあり、茶華道部、囲碁・将棋部も使用しています。



職員集会所(高松キャンパス)

◇職員集会所（詫間キャンパス）

詫間キャンパスは、教職員の研修等に使用する職員集会所（夕凧荘）があります。この施設は、学生の課外活動としても使用しています。



職員集会所(詫間キャンパス)

◇和敬館（高松キャンパス）

本施設は、健全にしてかつ規律ある学生生活の向上を図り、豊かな人間性を育成することを目的として、昭和 58 年 3 月に建設されました。施設には、和室（3 室）、シャワー室、洗面所及び便所等合宿研修に必要な諸設備が整備されています。



和敬館(高松キャンパス)

◇合宿研修所（詫間キャンパス）

詫間キャンパスには、健全にしてかつ規律ある学生生活の向上を図り、豊かな人間性を育成することを目的とした合宿研修所があります。この施設には研修室、談話ホール、浴室及び補食室等の設備があり、長期休業期間中に課外活動の合宿研修等に使用しています。



合宿研修所(詫間キャンパス)

学生数と志願者状況

◇学生数 令和3年5月1日現在

■本科

学 科 名	区 分	入学定員	現 員					計
			1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	
	機械工学科	40	42(2)	38(3)	45(2)	48	38(3)[1]	211(10)[1]
	電気情報工学科	40	42(4)	45(6)	45(8)	40(4)	40(4)	212(26)
	機械電子工学科	40	44(2)	38(4)	45(3)[1]	46(5)	31(4)	204(18)[1]
	建設環境工学科	40	40(11)	40(8)	41(8)	46(10)[1]	38(9)[1]	205(46)[2]
	通信ネットワーク工学科	40	42(9)	40(8)	46(12)[1]	35(7)	34(1)	197(37)[1]
	電子システム工学科	40	43(3)	43(5)	38(8)	40(7)	41(5)[1]	205(28)[1]
	情報工学科	40	44(14)	43(8)	42(9)	40(4)	40(5)[1]	209(40)[1]
	計	280	297(45)	287(42)	302(50)[2]	295(37)[1]	262(31)[4]	1,443(205)[7]

■専攻科

専 攻 名	区 分	入学定員	現 員		計
			1 年	2 年	
	創造工学専攻	24	30(2)	38(7)	68(9)
	電子情報通信工学専攻	18	18(4)[1]	22(4)	40(8)[1]
	計	42	48(6)[1]	60(11)	108(17)[1]

() 内は女子学生で内数
[] 内は外国人留学生で内数

◇入学志願者数と入学者数

■本科

令和3年度 (2021年度)	区 分	入学志願者数	入学者数	倍率 (入学志願者数/入学定員)
	機械工学科	32	41	0.8
	電気情報工学科	65	42	1.6
	機械電子工学科	41	42	1.0
	建設環境工学科	46	40	1.2
	通信ネットワーク工学科	42	42	1.1
	電子システム工学科	38	42	1.0
	情報工学科	67	42	1.7
	計	331	291	1.2

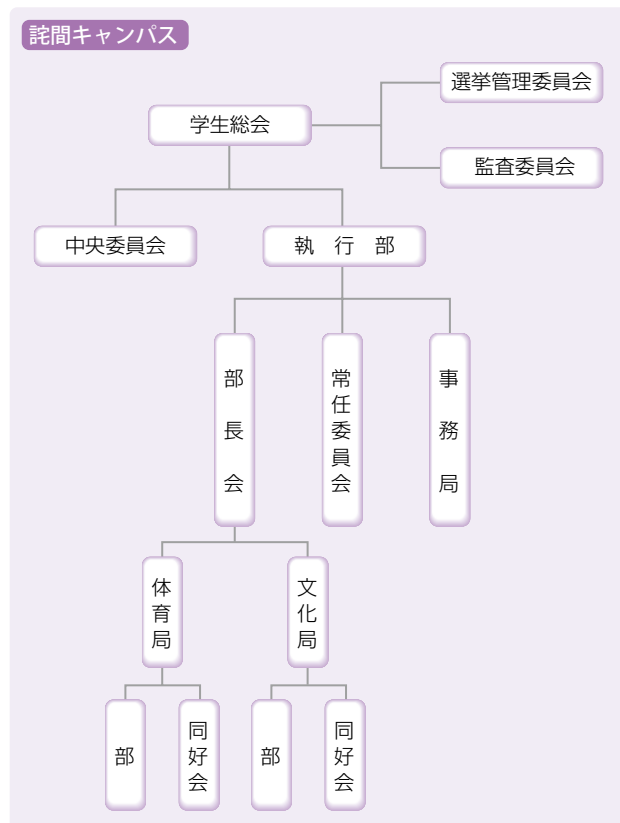
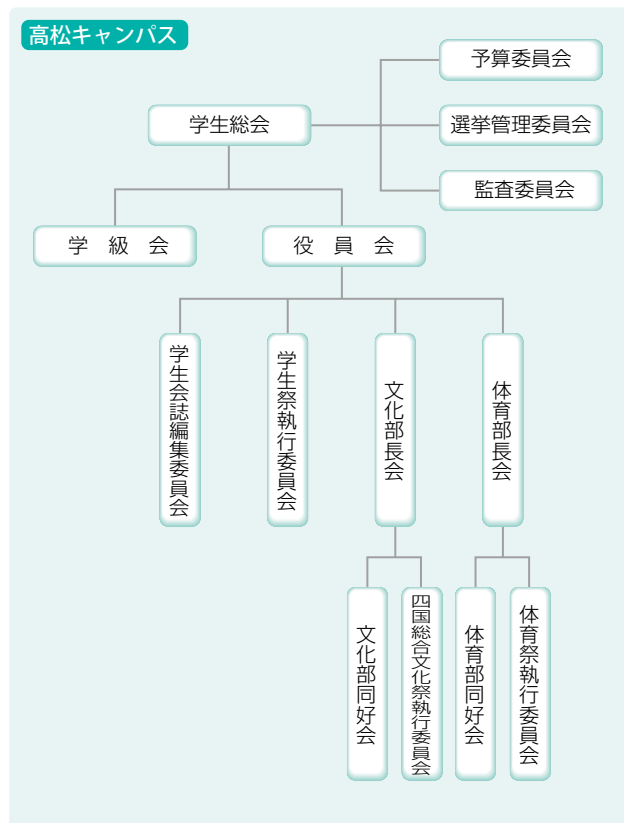
※帰国生特別選抜含む

■専攻科

令和3年度 (2021年度)	区 分	入学志願者数	入学者数	倍率 (入学志願者数/入学定員)
	創造工学専攻	51	30	2.1
	電子情報通信工学専攻	35	17	1.9
	計	86	47	2.0

学生組織

◇学生会組織図



◇部活動及び同好会

[高松キャンパス]

■体育系クラブ

野球部
バスケットボール部
ソフトテニス部
バレーボール部
卓球部
柔道部
剣道部
陸上競技部
サッカー部
ヨット部
水泳部
バドミントン部
テニス部
ハンドボール部

■文化系クラブ

写真部
吹奏楽部
E・S・S
軽音楽部
情報システム研究部
美術部
合唱団フローエ・テーネ
漫画研究部
機械システム研究部
次世代自動車研究部
茶華道部
サイエンスクラブ
囲碁・将棋部
宇宙開発研究部

[詫間キャンパス]

■体育局

【部】
野球部
バスケットボール部
ソフトテニス部
バレーボール部
卓球部
剣道部
陸上部
サッカー部
水泳部
少林寺拳法部
バドミントン部
テニス部

【同好会】
応援団同好会

■文化局

【部】
吹奏楽部
無線部
将棋部
軽音楽部

【同好会】
写真同好会
書道同好会
絵画同好会
文芸同好会
SPOT



全国高専ロボコン2019全国大会 優勝



第93回選抜高等学校野球大会「21世紀枠」香川県候補校選出



全国高専第31回プログラミングコンテスト 自由部門優秀賞

進路状況 キャリアサポートセンター

◇本科生

学 科		卒業者数	進学者数	就職者数	その他	求人会社数
高 松	機械工学科	33	15	17	1	834
	電気情報工学科	36	20	15	1	
	機械電子工学科	34	18	13	3	
	建設環境工学科	37	16	19	2	
	小 計	140	69	64	7	
詫 間	通信ネットワーク工学科	38	9	28	1	594
	電子システム工学科	44	14	30	0	
	情報工学科	32	14	18	0	
	小 計	114	37	76	1	
合 計		254	106	140	8	

◇専攻科生

専 攻		修了者数	進学者数	就職者数	その他
高 松	創造工学専攻	40	12	27	1
詫 間	電子情報通信工学専攻	14	2	11	1
合 計		54	14	38	2

◇大学編入先一覧 本科生

進 学 先	高 松			詫 間			合 計
	機 械	電 気	機 電	建 設	通 信	電 子 情 報	
香川高専専攻科	5	7	9	7	6	7	44
香川高専専攻科・香川大学創造工学部 (イノベーション創造型連携教育プログラム)	2						2
豊橋技術科学大学	3	6	4	3	1	3	22
長岡技術科学大学			1	3	2		6
愛媛大学					1		1
大分大学	1						1
大阪大学		1		1			2
大阪府立大学			1				1
岡山大学	2	1					3
香川大学	1		2	1		1	5

進 学 先	高 松			詫 間			合 計
	機 械	電 気	機 電	建 設	通 信	電 子 情 報	
九州工業大学						2	2
岐阜大学						1	1
佐賀大学			1				1
島根大学						1	1
筑波大学						1	1
東京農工大学						1	1
徳島大学					1	1	2
名古屋大学		1					1
三重大学	1						1
立命館大学		2					2
和歌山大学	1						1

◇大学院入学先一覧 専攻科生

進 学 先	高 松	詫 間	合 計
豊橋技術科学大学大学院	1		1
岡山大学大学院	1		1
九州大学大学院	3	1	4
神戸大学大学院	1		1
東京工業大学工学院	1		1
東京都立大学大学院	1		1
東北大学大学院	1		1
奈良先端科学技術大学院大学	1	1	2
広島市立大学大学院	1		1
広島大学大学院	1		1

◆就職先一覧

就 職 先	高 松				託 開			合 計
	機 械	電 機	機 電	建 設	通 信	電 子	情 報	
アークレイ(株)			1					1
I D E C(株)		1						1
朝日スチール工業(株)			1	1				2
安治川鉄工(株)	1							1
e B A S E(株)						1		1
(株)石垣				2				2
(株)イシダ	1				1			2
石田エンジニアリング(株)		1						1
出光興産(株)						1		1
エース設計産業(株)			2					2
(株)エクセディ			1					1
(株)S T N e t					1			1
N E C フィールドエンジニアリング(株)						1		1
N T T コム エンジニアリング(株)		1						1
(株)N T T 東日本 - 南関東			1		1	1		3
大紀商事(株)						1		1
大阪瓦斯(株)	2		1					3
(株)大阪防水建設社				1				1
(株)大塚製薬工場					1			1
(株)オブテージ					1			1
オムロンフィールドエンジニアリング(株)							1	1
オリエンタルモーター(株)		1		1	2			4
花王(株)	2							2
香川県			1	1				2
香川県警察					1			1
(株)カナック					1			1
川田工業(株)				1				1
関西グリコ(株)	1							1
関西電力(株)					1	2		3
京セラ(株)				1				1
京セラコミュニケーションシステム(株)					1			1
京都府			1					1
(株)クボタ		1						1
(株)クラレ							1	1
K D D I (株)							1	1
K D D I エンジニアリング(株)					1			1
経済産業省四国経済産業局				1				1
(株)ケミカル工事			1					1
医療法人高樹会						1		1
高知さんさんテレビ(株)						1		1
国土交通省四国地方整備局			2	1				3
コベルコンソフトサービス(株)						1		1
五洋建設(株)			1					1
坂出市			1					1
三和エレクトロニクス(株)					1			1
G T C システムマネジメント(株)						1		1
(株)シアテック			1					1
J F E プラントエンジニア(株)					1			1
J - P O W E R (電源開発(株))					1	1		2
(株)jig.jp						1		1
四国機器(株)				1				1
四国計測工業(株)				1	1	1	1	4
四国電力(株)	3		1	1	1	3		9
四変テック(株)							1	1
(株)ジュビターテレコム							1	1
ショーボンド建設(株)				2				2
水ing(株)			1					1
住友ケミカルエンジニアリング(株)	1							1
住友電設(株)						1		1
善通寺市				1				1
ダイキン工業(株)					1	1		2
(株)ダイセル							1	1
大鉄工業(株)				1				1

就 職 先	高 松				託 開			合 計
	機 械	電 機	機 電	建 設	通 信	電 子	情 報	
(株)Dynax T				1				1
太洋基礎工業(株)				1				1
高松琴平電気鉄道(株)						1		1
高松市				1				1
タカヤ(株)					1		1	2
(株)タダノ	1			1	1		1	4
(株)タダノシステムズ		1						1
(株)タマディック	1							1
中国四国管区警察局					1			1
中国電力ネットワーク(株)						1		1
(株)T B S テックス							1	1
テラテクノロジーズ(株)							1	1
(株)デンソーテンテクノロジ						1		1
(株)デンロコーポレーション						1		1
東亜合成(株)						1		1
東海旅客鉄道(株)							1	1
東京都下水道サービス(株)				1				1
東レ(株)							1	1
(株)ドコモCS四国						2		2
N I T T O K U(株)	1							1
(株)西尾レントオール	1							1
西日本高速道路(株)				1				1
西日本旅客鉄道(株)	1					1		2
西松建設(株)				1				1
日本たばこ産業(株)		1						1
日本放送協会						1		1
日本通信エンジニアリングサービス(株)						1		1
ネクストウェア(株)		1						1
パナソニック(株)				1				1
パナソニックシステムソリューションズジャパン(株)			1					1
阪神高速技研(株)				1				1
(株)バンダイナムコスタジオ							1	1
(一財) 阪大微生物病研究会						1		1
東日本旅客鉄道(株)		1						1
(株)ビューテック			1					1
ファナック(株)			1				1	2
富士ゼロックス四国(株)						1		1
富士ダイス(株)					1			1
(株)富士通エフサス							1	1
フジテック(株)	1							1
富士電機(株)		1						1
本州四国連絡高速道路(株)				1	1			2
(株)増田地質工業				1				1
丸亀菱電テクニカ(株)						1		1
マルホ発條工業(株)							1	1
三井化学(株)				1				1
三菱ケミカル(株)							1	1
三菱電機エンジニアリング(株)							1	1
三菱電機(株)受配電システム製作所							1	1
三菱電機(株)通信機製作所	1					1		2
(株)ミトヨテクニカル							1	1
(株)ミライト・テクノロジーズ							1	1
(株)メンバーズ			1				1	2
矢崎総業(株)	1							1
ユニ・チャーム国光ノンウーヴン(株)						1		1
ユニ・チャームプロダクツ(株)						1		1
(株)ユノス								1
四電エナジーサービス(株)			1					1
四電エンジニアリング(株)			1			1		2
(株)四電技術コンサルタント				1	1			2
(株)四電工		1				1	1	3
(株)レクザム	1	2			2			6
自営業						1		1

施設配置図

高松キャンパス



建物

① 管理部及び一般教育棟	3,638	⑩ 職員集会所	156
② 一般教育棟	1,104	⑪ クラブハウス①	150
③ 機械工学科棟	2,185	⑫ クラブハウス②	149
④ 機械実習工場	994	⑬ 風洞実験室	150
⑤ 電気情報工学科棟	1,644	⑭ 自彊会館	742
⑥ 機械電子工学科棟	848	⑮ 和敬館	250
⑦ 建設環境工学科棟及び講義棟	2,480	⑯ 清雲寮(北寮)	1,375
⑧ 専攻科棟	2,156	⑰ 清雲寮(南寮)	1,302
⑨ 図書館棟	1,843	⑱ 清雲寮(西寮)	512
⑩ 情報基盤センター	383	⑲ 清雲寮(食堂等)	400
⑪ 地域イノベーションセンター	606		
⑫ 第一体育館	990		
⑬ 第二体育館	880		
⑭ 武道場	346		
⑮ トレーニングセンター	160		

屋外運動場等

②⑥ 水泳プール(6コース25m)
②⑦ 運動場(トラック300m・サッカー場・ラグビー場)
②⑧ ハンドボールコート(1面)
②⑨ 人工芝テニスコート(1面)・ミニバスケットコート(1面)
③⑩ 野球場(1面)
③⑪ テニスコート(4面)
③⑫ 人工芝テニスコート(1面)
③⑬ 社会基盤メンテナンス教育センター実習フィールド

土地

【区分】	【面積㎡】
校舎・寄宿舎・運動場・職員宿舎敷地(別途借用地)	132,702 (424)
木太町職員宿舎敷地	1,092
昭和町職員宿舎敷地	1,074

財政

◇収入・支出 (令和2年度)

●収入

	(単位:千円)
運営費交付金	182,471
施設費	612,142
自己収入	
授業料及び入学検定料	395,922
雑収入	6,242
産学連携等研究収入及び寄附金	49,893
その他補助金	81,632
計	1,328,302

●支出

	(単位:千円)
教育研究経費	586,265
一般管理費	13,203
施設費	612,142
産学連携等研究費及び寄附金事業費等	29,210
その他補助金	80,537
計	1,321,357

・ 詫間キャンパス



建物

建物	面積㎡	建物	面積㎡
① 管理棟	1,194	①⑥ 寄宿舎ボイラー棟	84
② 第一学科棟	3,716	①⑦ 寄宿舎倉庫	50
③ 第二学科棟	1,496	①⑧ 寄宿舎浴場	135
④ 第三学科棟	2,177	①⑨ 第一体育館	825
⑤ マルチメディア棟	1,636	①⑩ 第二体育館	879
⑥ 専攻科棟	948	①⑪ 武道場	304
⑦ 第一講義棟	3,360	①⑫ 合宿研修所	204
⑧ 第二講義棟	660	①⑬ 体育器具庫	144
⑨ 図書館	1,661	①⑭ プール付属建物	60
⑩ 寄宿舎管理棟	1,200	①⑮ 福利センター	662
⑪ 七宝寮2棟	1,647	①⑯ 職員集会所	194
⑫ 七宝寮3棟	2,652	①⑰ 七宝記念館	318
⑬ 紫雲寮	1,350	①⑱ 守衛所	29
⑭ 東共用棟	234	①⑲ 車庫	145
⑮ 西共用棟	598	①⑳ 職員宿舎	1,093

屋外運動場

③① 水泳プール(7コース25m)
③② 野球グラウンド
③③ 陸上競技場(トラック300m)
③④ テニスコート(6面)

土地

【区分】	【面積㎡】
校舎敷地・寄宿舎・運動場・職員宿舎	121,093

◇ 寄附金受入状況

● 寄附金

【年度】	【件数】	【金額(単位:千円)】
平成26年度	28	15,851
平成27年度	26	14,808
平成28年度	31	14,309
平成29年度	27	11,756
平成30年度	33	12,298
令和元年度	51	20,174
令和2年度	30	10,123



詫間キャンパス アクセスルート

■JR 詫間駅からの交通

- ・ 詫間駅前バス停留所より三豊市コミュニティバス「詫間線 大浜・名部戸行き」または「詫間三野線 大浜行き」に乗り、約 20 分後、「香川高専前」バス停にて下車

■JR 岡山・児島駅からの交通

- ・ JR 岡山駅から JR 詫間駅間、約 90 分
- ・ JR 児島駅から JR 詫間駅間、約 60 分

■通学のための最寄り駅からの距離

- ・ JR 詫間駅から詫間キャンパス間、約 6km

■高松自動車道からの交通

- ・ (東方面よりお越しの場合) 三豊鳥坂インターチェンジより約 20 分
- ・ (西方面よりお越しの場合) さぬき豊中インターチェンジより約 30 分

■高松空港からの交通

- ・ 高松空港より車で約 60 分

詫間キャンパス

〒769-1192 香川県三豊市詫間町香田 551
TEL.0875-83-8506

高松キャンパス アクセスルート

■JR 高松駅からの交通

- ・ JR 高松駅バスターミナル⑤番バス乗り場より「④由佐・空港行き」「③由佐・岩崎行き」「⑤池西・香南楽湯行き」のいずれかに乗車、約 25 分後「小山」①バス停にて下車、徒歩約 10 分
- ・ JR 高松駅バスターミナル⑤番バス乗り場より「④栗林公園・御殿・県立プール行き」乗車、約 30 分後「香川高専前」②バス停にて下車

■JR 岡山・児島駅からの交通

- ・ JR 岡山駅から JR 高松駅間、約 60 分
- ・ JR 児島駅から JR 高松駅間、約 30 分

■通学のための最寄り駅からの距離

- ・ JR 高松駅から高松キャンパス間、約 7km
- ・ JR 栗林駅から高松キャンパス間、約 5km
- ・ JR 端岡駅から高松キャンパス間、約 5km
- ・ ③コトデン円座駅から高松キャンパス間、約 4km

■高松自動車道からの交通

- ・ (西方面よりお越しの場合) 高松西インターチェンジより約 7 分
- ・ (東方面よりお越しの場合) 高松槽紙インターチェンジより約 5 分

■高松空港からの交通

- ・ 高松空港より車で約 20 分

高松キャンパス

〒761-8058 香川県高松市勅使町 355
TEL.087-869-3811

香川高等専門学校 校歌

作詞:藤本 友美
作曲:永町 一樹



1. き の め ほ ころ ぶ と き だ い ち の い き づ か い さ
2. の び る わ か ば の と き し ろ い は な が さ く た
3. め ぐ み ゆ た か な と き か た く み を む す ぶ な

5
ぬ き の み ど り に は か ぜ す み わ た る た
か く は る か な そ ら の ぞ む た い よ う お
が め る せ と の う み あ お い さ ぎ な み き

9
く ま し く み な ぎ る お も い み
お き な あ す そ の て に ひ め て う
た い も ゆ じ ゆ う な ひ と み い

13
ら い こ め そ う ぞ う は ぐ く み ゆ こ う }
け つ が ん で ん と う は ぐ す び て ゆ こ う } こ
ぎ つ ど い こ う が く ひ ら い て ゆ こ う }

17
こ ろ ひ と つ な ぎ か が わ こ う せ ん

- 3 恵み豊かな時 固く実を結ぶ
眺める瀬戸の海 青いさざ波
期待萌ゆ 自由な瞳
いざ集い 工学 拓いてゆこう
心ひとつなぎ 香川高専

2 伸びる若葉の時 白い花が咲く
高く遙かな空 臨む太陽
大きな明日 その手に秘めて
受け継がん 伝統 結びてゆこう
心ひとつなぎ 香川高専

1 木の芽ほころぶ時 大地の息つかい
讃岐のみどりには 風澄み渡る
逞しく みなぎる想い
未来こめ 創造 育みゆこう
心ひとつなぎ 香川高専



香川高等専門学校

〒761-8058 香川県高松市勅使町355 TEL.087-869-3811

■ 高松キャンパス	〒761-8058	香川県高松市勅使町355	TEL.087-869-3811
■ 詫間キャンパス	〒769-1192	香川県三豊市詫間町香田551	TEL.0875-83-8506

URL <https://www.kagawa-nct.ac.jp/>